

地方独立行政法人天王寺動物園

業務実績評価シート(個票)

令和 3 年度中の業務実績
(令和 4 年度に評価)

【全80項目】

【評価点】

- V : 計画を大幅に上回って実施している
- IV : 計画を上回って実施している
- III : 計画を順調に実施している
- II : 計画を十分実施できていない
- I : 計画を大幅に下回っている

評価シート（個票）

通し番号		1		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-1-(1) 展示動物の計画的な導入・確保 動物園の根幹である動物展示の充実に向け、人気動物や希少動物の計画的な導入・確保（繁殖を含む。）に取り組む。		
P	中期計画	第1-1-(1) 展示動物の計画的な導入・確保 来園者ニーズの高い人気動物や希少動物の導入に向け、国内外の動物園との信頼関係を構築するための取組として、動物園コミュニティの活動に積極的に参加・協力する。 また、当園の飼育状況（コレクション計画、獣舎整備計画等）を踏まえた具体的な動物導入計画に基づく取組を行う。		
	年度計画	獣舎整備計画等に基づき、動物導入計画を策定する。これに伴い、必要に応じてコレクション計画、飼育方針文書等も変更する。		
	評価事例	Ⅲ	・動物導入計画の策定	
		Ⅳ・Ⅴ	・導入計画に基づいた新たな動物導入の海外との直接交渉実績など	
D	行動	大阪・関西万博開催に向け、更なる魅力向上をめざし、令和3年度中に獣舎整備計画の前倒しを行った。これに合わせて動物導入・動物移動計画を策定の上、コレクション計画の見直しも行った。 このコレクション計画の見直しで、国内では唯一、天王寺動物園だけが飼育していることから当園にとってシンボリックな動物であること、また絶滅危惧種でもあることから、キーウィを新たに保全にかかる取組を行う種に位置付けた。 さらにこのキーウィについて、世界動物園水族館協会（WAZA）の種別調整者へヒアリングを行うなど、新規個体導入に向けた調整を開始している。 またコレクション計画で搬出優先となった動物種については、現在受入先の園館を探している。		
C	法人の自己評価	Ⅳ	評価理由	導入計画に基づいた海外との直接交渉実績ありのため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅳ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	獣舎整備計画の前倒しに伴う変更だけに留まらず、新たに保全種として位置付けたキーウィの導入に向け、交渉を開始するなど、計画以上の成果が認められる。		
A	次年度の年度計画	【1】動物導入計画を踏まえた具体的な取組み（準備・交渉を含む。）を実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		2		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-1-(1) 展示動物の計画的な導入・確保 動物園の根幹である動物展示の充実に向け、人気動物や希少動物の計画的な導入・確保（繁殖を含む。）に取り組む。		
P	中期計画	第1-1-(1) 展示動物の計画的な導入・確保 来園者ニーズの高い人気動物や希少動物の導入に向け、国内外の動物園との信頼関係を構築するための取組として、動物園コミュニティの活動に積極的に参加・協力する。 また、当園の飼育状況（コレクション計画、獣舎整備計画等）を踏まえた具体的な動物導入計画に基づく取組を行う。		
	年度計画	JAZA（日本動物園水族館協会）の個体群管理計画に基づく種別管理を継続して担当する。 （ヨウスコウワニ・ホッキョクグマ・シシオザル）		
	評価事例	Ⅲ	・種別管理の担当や部会員を受嘱	
		Ⅳ・Ⅴ	・新たな種別管理、部会員を担当	
D	行動	従前から担当しているJAZA（日本動物園水族館協会）各委員に加えて、新規で2つの委員を担当することとなった。 【従前より担当】 生物多様性委員会 ヨウスコウワニ種別管理者 ホッキョクグマ専門技術員 クロサイ専門技術員 シシオザル専門技術員 安全対策委員会 感染症対策部 部員 【令和3年度より新規で担当】 総務委員会 栄養部 部員 教育普及委員会 学術研究部 部員		
C	法人の自己評価	Ⅳ	評価理由	新たな部会員を担当したため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅳ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	・委員会は定員が決まっており、ポストが空かないと部員になることができない。さらに部員候補者は推薦が多く、園の信頼がないと中々声がかかりにくいと考えられる。 ・委員会に所属することは、新たな知見を天王寺動物園へもフィードバックできるだけでなく、部員としての信頼が得られ、天王寺動物園の地位向上に繋がる。 以上の点から、2名も新たに部員を担当したことは評価すべきと判断した。		
A	次年度の年度計画	【2】JAZAの個体群管理計画に基づく種別管理等を継続して担当する。（ヨウスコウワニ、ホッキョクグマ、シシオザル等）		

評価シート（個票）

通し番号		3		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-1-(1) 展示動物の計画的な導入・確保 動物園の根幹である動物展示の充実に向け、人気動物や希少動物の計画的な導入・確保（繁殖を含む。）に取り組む。		
P	中期計画	第1-1-(1) 展示動物の計画的な導入・確保 来園者ニーズの高い人気動物や希少動物の導入に向け、国内外の動物園との信頼関係を構築するための取組として、動物園コミュニティの活動に積極的に参加・協力する。 また、当園の飼育状況（コレクション計画、獣舎整備計画等）を踏まえた具体的な動物導入計画に基づく取組を行う。		
	年度計画	JAZAもしくはWAZA（世界動物園水族館協会）の学術研究部や普及啓発部の開催する研究会等並びに地域別会議等に参加・協力し、園内で内容を報告する。		
	評価事例	Ⅲ	・研究会等への参加・協力の上、参加者が園内で報告	
		Ⅳ・Ⅴ	・JAZA会議を主催	
D	行動	以下の研究会や会議等に参加し、受講後には議事録等を共有フォルダ内に保存し飼育員全員が閲覧できる状態とするとともに、主担当となる班のミーティング等で共有した。 （R3年度からの取組） ＜参加実績＞ ・近畿ブロック動物園飼育係研修会（6月）オンライン ・近畿ブロック動物園臨床研究会（7月）オンライン 法人飼育員の発表（チュウゴクオオカミの鼠経ヘルニアについて） ・ホッキョクグマ会議（10月）オンライン ・レッサーパンダ計画推進会議（10月） ・ゾウ会議（10月）オンライン ・種保存会議（11月）オンライン ・教育普及シンポジウム（11月） ・Great Ape Husbandry & Health Workshop(11月) ・近畿ブロック動物園技術者研究会（12月）オンライン研修 ・動物園技術者研究会（12月）オンライン研修		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	JAZA主催の研究会等への参加・協力の上、参加者が園内で報告したため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	研修会や会議のオンライン化により、出席者の増加や参加回数の増加があったとのこと。（コロナ前は定員が決められており参加人数が限られていた等の理由により参加できなかったものもあった。） 研修資料等をフォルダに保存することにより、ミーティング出席者以外にも共有することができるようになり、計画通りに進捗していると評価できる。		
A	次年度の年度計画	【3】JAZA、WAZAの学術研究部や普及啓発部の開催する研究会等並びに地域別会議等に参加・協力し、園内で内容を報告する。		

評価シート（個票）

通し番号		5		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-1-(2) 魅力的なイベントの企画・実施 園内で楽しむ・学ぶ、双方の観点から、企業、近隣施設、NPO法人、教育機関等とも連携しつつ、多様なイベントを企画・実施する。		
P	中期計画	第1-1-(2) 魅力的なイベントの企画・実施 誘客面やリピーター増加に加え教育効果の観点からも、これまで実施してきたイベントの内容・時間・連携先などを検証のうえ、イベント企画実施にかかる指針を策定し、魅力的・効果的なイベントを企画・実施する。		
	年度計画	これまで取組んできたイベントを継続しながら効果検証を実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・ イベント成果等の検証を実施	
		Ⅳ・Ⅴ	・ 検証結果を指針や次期イベントに反映し集客増	
D	行動	アンケート結果等を参考に、教育普及アクションプランの基本理念で定める3つの視点について達成できているか、今後に反映できることはないか等の検証作業を実施している。 また検証結果については、法人内の会議にて報告し、情報共有する仕組みとしている。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	検証を実施しているため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	効果検証に3つの視点を取り入れたことで、動物園として重要視するポイントに焦点を当てた分析ができている。 このことで次回以降の反映がしやすくなり、今後、データが集まることで、行うべきことが明確化することが期待でき、計画通りに進捗していると判断できる。		
A	次年度の年度計画	【4】昨年度の検証を踏まえイベントを実施するとともに、結果を検証し、必要に応じ実施内容やイベントに関する指針に反映させる。		

評価シート（個票）

通し番号		6		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-1-(2) 魅力的なイベントの企画・実施 園内で楽しむ・学ぶ、双方の観点から、企業、近隣施設、NPO法人、教育機関等とも連携しつつ、多様なイベントを企画・実施する。		
P	中期計画	第1-1-(2) 魅力的なイベントの企画・実施 誘客面やリピーター増加に加え教育効果の観点からも、これまで実施してきたイベントの内容・時間・連携先などを検証のうえ、イベント企画実施にかかる指針を策定し、魅力的・効果的なイベントを企画・実施する。		
	年度計画	近隣商業施設や交通機関等との連携に取り組む。		
	評価事例	Ⅲ	・商業施設や交通機関等との連携が実現	
		Ⅳ・Ⅴ	・連携による集客増（同条件時期の入園者数比較による）	
D	行動	令和3年度中の連携実績は以下のとおり。なお、セレッソ大阪との連携イベントは新規の取組である。 ■近隣商業施設等との連携 ・セレッソ大阪主催（新規） 9月14日～10月10日 あべのHoopに設置されるセレッソ大阪の期間限定開催。ポップアップストアとの相互送客のためのイベントである。 （内容）園内に設置した動物クイズの回答をあべのHoopのセレッソ大阪のショップ「アベセレ」で伝えると記念品プレゼント。またこの取組のPR動画を園内で撮影し、セレッソ大阪の公式YouTube（登録者数27,800名）で流すことにより動物園への集客を図った。 ・東急不動産SCマネジメント株式会社（あべのキューズモール運営会社）主催 11月27日 ゴワザの謎に迫る！「プロQ学園」 （内容）プロフェッショナルに触れていただくワークショップ。天王寺動物園では、獣医師の仕事を中心に実施した。 ■交通機関との連携 ・オオサカメトロ乗車券 OSAKA PiTaPa・エンジョイエコカードによる提示割引		
C	法人の自己評価	Ⅳ	評価理由	連携だけに留まらず、教育普及アクションプランに基づいた取組内容としたため
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	集客数増等のⅣ評価相当事例が確認できなかったため
	ヒアリング結果	従来からの取組に加えて、新たな連携が来ているが、Ⅳ評価事例に相当するような連携による集客増等効果が確認できなかったため、計画の範囲内と判断しⅢ評価とする。		
A	次年度の年度計画	【5】昨年度に実施した近隣商業施設や交通機関等との連携イベント等の検証を踏まえた取組を行うとともに、結果を検証し、必要に応じ実施内容や前項指針に反映させる。		

評価シート（個票）

通し番号		7		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-1-(2) 魅力的なイベントの企画・実施 園内で楽しむ・学ぶ、双方の観点から、企業、近隣施設、NPO法人、教育機関等とも連携しつつ、多様なイベントを企画・実施する。		
P	中期計画	第1-1-(2) 魅力的なイベントの企画・実施 誘客面やリピーター増加に加え教育効果の観点からも、これまで実施してきたイベントの内容・時間・連携先などを検証のうえ、イベント企画実施にかかる指針を策定し、魅力的・効果的なイベントを企画・実施する。		
	年度計画	感染症拡大防止対策に留意し、イベントを実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・ 感染症防止対策の実施	
		Ⅳ・Ⅴ	（例示なし）	
D	行動	感染症拡大防止対策（お客様どうしの距離の確保・消毒液の設置・換気等）を講じつつイベントを実施している。 ≪実施実績≫ ・ 7月 戦時中の動物園展 ・ 7月 ホッキョクグマに氷柱プレゼント（ライブ配信） ・ 8月、10月 ナイトズー ・ 9月 敬老の日イベント ・ 11月 獣医ショー ・ 11月 カバの歯磨きイベント また、緊急事態宣言による閉園時には、動画配信サービスによるライブ配信を積極的に行ったり、宣言解除後もライブ配信の特性を生かした寄附を募る取組を実施するなど、コロナ禍ならではの工夫も行った。 また、これらの経験を生かし、オンライン上での他園とのコラボ企画を実施した。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	感染症拡大防止対策を講じつつ、イベントを実施したため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅳ	評価理由	コロナ禍ならではの工夫で新たな取組を実施したため
	ヒアリング結果	感染対策を実施することは当然のことながら、コロナ禍ならではの工夫をし、オンラインイベントなどの新たな取組を行っているため、計画を上回っていると判断しⅣ評価とする。		
A	次年度の年度計画	【59】 法人と委託先事業者が協力のうえ、新型コロナウイルスの感染状況に応じた適切な対策を講じる。（職員の健康管理を含む。）		

評価シート（個票）

通し番号		8		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-1-(3) 積極的な情報発信 天王寺動物園の取組内容や飼育動物の状況について、各種メディアを通じた情報発信のほか、ホームページやSNSを利用して自らが情報発信の主体となる等、ターゲットに応じて媒体を使い分け、積極的かつタイムリーな情報発信を行う。		
P	中期計画	第1-1-(3) 積極的な情報発信 ホームページ、各種SNS等を活用して、ターゲットや目的を明確にしたうえで効果的でタイムリーな情報発信を行うことにより、誘客に加え、動物の生態、生物多様性等の保全に関する理解にも繋げる。 また、各種メディアからの取材、番組企画やロケーションを積極的に受け入れるとともに、メディアへの継続的な情報提供を行う。		
	年度計画	効果的でタイムリーな情報発信を行うために広報戦略を策定する。		
	評価事例	Ⅲ	・ 広報戦略の策定	
		Ⅳ・Ⅴ	・ 策定した戦略を踏まえた新たな広報の実施	
D	行動	12月に広報戦略を策定した。 なお、広報戦略の策定に先駆け、即時性の高いTwitterを8月に開設した。 <概要> ●動物園広報の使命 ・ 飼育動物の親しみやすい話題の発信 ・ 種の保存や生息地の環境までを発信 ●園外への発信 ・ 発信媒体ごとの特性を考慮し使い分け 親しみやすい話題：SNS（スピードを重視） 種の保存・生息地環境：広報紙（じっくり読める紙媒体の特性を重視） ●園内の発信（園内掲示、動物の解説） ●発信情報の多言語化 ・ 英語・中国語・韓国語が基本 ・ 対応が必要な媒体・情報を整理 ●定期的に検証する仕組み		
C	法人の自己評価	Ⅳ	評価理由	戦略で位置づけた情報発信手法の一つであるTwitterを新たに開設したため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅳ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	広報戦略を策定したことに加え、タイムリーに情報を届けるツールとしてTwitterを開設したことは、評価事例に挙げた「新たな広報の実施」に相当すると判断でⅣ評価とする。		
A	次年度の年度計画	【6】広報戦略（R3策定）に基づいた情報発信を行うとともに、実績を検証し、必要に応じて有識者の意見を聞くなどして、戦略に反映させる。		

評価シート（個票）

通し番号		9		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-1-(3) 積極的な情報発信 天王寺動物園の取組内容や飼育動物の状況について、各種メディアを通じた情報発信のほか、ホームページやSNSを利用して自らが情報発信の主体となる等、ターゲットに応じて媒体を使い分け、積極的かつタイムリーな情報発信を行う。		
P	中期計画	第1-1-(3) 積極的な情報発信 ホームページ、各種SNS等を活用して、ターゲットや目的を明確にしたうえで効果的でタイムリーな情報発信を行うことにより、誘客に加え、動物の生態、生物多様性等の保全に関する理解にも繋げる。 また、各種メディアからの取材、番組企画やロケーションを積極的に受け入れるとともに、メディアへの継続的な情報提供を行う。		
	年度計画	ホームページの多言語化について、未対応ページの拡充に向けて、対象とする情報の選別等を検討する。		
	評価事例	Ⅲ	・ホームページの多言語化未対応箇所の選別等にかかる方針策定	
		Ⅳ・Ⅴ	・策定した方針を踏まえた多言語化対応実績	
D	行動	12月に多言語化への指針を含む広報戦略を策定した。 <広報戦略（該当箇所）> ・発信情報の多言語化 外国人入園者の約9割がアジアからであることから、英語・中国語・韓国語の3か国語での発信を基本とする。 <u>多言語化対象</u> ・ホームページ（R4年度より実施予定） 園の基本情報、教育普及に繋がる動物の生態や環境問題に関する内容 ・園内掲示（園内掲示物整備アクションプランに基づき順次実施予定） 経路案内、動物パネル、展示のお知らせ、注意事項		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	ホームページの多言語化未対応箇所の選別等にかかる方針を策定したため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	小項目8で策定した広報戦略の中で、多言語化の方針を策定している。現在の多言語化状況を把握した上で、多言語化対象を選別することが出来ているため、計画通りに進んでいると判断できる。		
A	次年度の年度計画	【7】前項戦略に基づきホームページの多言語化を拡充する。		

評価シート（個票）

通し番号		10		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-1-(3) 積極的な情報発信 天王寺動物園の取組内容や飼育動物の状況について、各種メディアを通じた情報発信のほか、ホームページやSNSを利用して自らが情報発信の主体となる等、ターゲットに応じて媒体を使い分け、積極的かつタイムリーな情報発信を行う。		
P	中期計画	第1-1-(3) 積極的な情報発信 ホームページ、各種SNS等を活用して、ターゲットや目的を明確にしたうえで効果的でタイムリーな情報発信を行うことにより、誘客に加え、動物の生態、生物多様性等の保全に関する理解にも繋げる。 また、各種メディアからの取材、番組企画やロケーションを積極的に受け入れるとともに、メディアへの継続的な情報提供を行う。		
	年度計画	メディアへの継続的な情報提供を行う。		
	評価事例	Ⅲ	・継続したメディアへの情報提供	
		Ⅳ・Ⅴ	・TV新聞等での特集報道・HPアクセス数の増加	
D	行動	イベント等の報道発表、各種メディアからの取材受入れ、雑誌等への情報提供、記者クラブだけでなく、過去取材していただいたメディアへ積極的に情報提供を行っている。 【情報提供による効果】 HPアクセス数の増 R3 6,284,331（R3比約100万増） （参考） R2 5,097,412 R1 5,449,966 H30 5,499,166		
C	法人の自己評価	Ⅳ	評価理由	TV新聞等での報道多数（ハウちゃん報道）かつHPアクセス数が増加しているため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	Ⅳ評価事例に該当するHPアクセス数増の理由が確認できなかったため
	ヒアリング結果	記者クラブだけでなく、過去に取材を受けたメディアに対しても情報提供を行うなど、より広範囲に広報できている。 Ⅳ評価事例にあるHPアクセス数については、広報によるものか、その他の外的要因によるものかの確認ができず、またハウちゃん効果による具体的な増加件数が確認できなかったため、計画を上回っているとまでは言えないと判断し、Ⅲ評価とする。		
A	次年度の年度計画	【6】広報戦略（R3策定）に基づいた情報発信を行うとともに、実績を検証し、必要に応じて有識者の意見を聞くなどして、戦略に反映させる。		

評価シート（個票）

通し番号		11		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-1-(3) 積極的な情報発信 天王寺動物園の取組内容や飼育動物の状況について、各種メディアを通じた情報発信のほか、ホームページやSNSを利用して自らが情報発信の主体となる等、ターゲットに応じて媒体を使い分け、積極的かつタイムリーな情報発信を行う。		
P	中期計画	第1-1-(3) 積極的な情報発信 ホームページ、各種SNS等を活用して、ターゲットや目的を明確にしたうえで効果的でタイムリーな情報発信を行うことにより、誘客に加え、動物の生態、生物多様性等の保全に関する理解にも繋げる。 また、各種メディアからの取材、番組企画やロケーションを積極的に受け入れるとともに、メディアへの継続的な情報提供を行う。		
	年度計画	感染症防止対策を踏まえた効果的な情報発信を検討し実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・ 感染症防止対策の情報発信	
		Ⅳ・Ⅴ	(例示なし)	
D	行動	4月～ ・ 園内に、感染症防止対策に関するポスター掲示 ・ 両ゲートのデジタルサイネージにお客様へのお願いを掲載 ・ 10時から1時間ごとに、感染症防止に向けての啓発放送実施 ・ HPIに、感染症防止対策およびお客さまへのお願いを掲載 ・ 再開園のプレス資料に感染症防止対策およびお客さまへのお願いを掲載 8月～ ツイッターに掲載し、上部へ固定		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	感染症防止対策の情報発信をしたため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	園内掲示や放送にて感染症防止対策に関する情報を発信するだけでなく、HPやSNSにも天王寺動物園での感染症防止対策の取組みについて掲載しているため、計画通り進捗していると判断した。		
A	次年度の年度計画	【59】 法人と委託先事業者が協力のうえ、新型コロナウイルスの感染状況に応じた適切な対策を講じる。（職員の健康管理を含む。）		

評価シート（個票）

通し番号		12		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者と接する売店事業者や委託事業者も含めた全ての園内スタッフのホスピタリティマインドを持った対応、園内の美観保持、外国語による情報提供、あらゆる世代が見やすい観覧スペースの設置等、来園者満足度向上に向けた取組を推進する。		
P	中期計画	第1-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者が園内で楽しく過ごすことができるよう、委託事業者も含め、園内で働くスタッフが来園者に対し、ホスピタリティマインドを持って接するための取組みとして研修などを体系的に実施する。定期的な清掃により園内の美観を保持するほか、案内板をはじめとする情報提供の多言語化を図る。さらに、新たに建設する獣舎については、観覧スペースや導線等、子どもや車いす利用者も快適に観覧できる設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても工夫を施し、すべての来園者にとって快適な観覧環境を確保する。		
	年度計画	ホスピタリティマインド醸成のための体系的な研修計画を立案する。		
	評価事例	Ⅲ	・研修計画の立案	
		Ⅳ・Ⅴ	・研修計画に基づいた研修実績	
D	行動	参考となる他施設への聞き取り等を踏まえて、12月に「ホスピタリティマインド醸成に関する方針」を策定し、その中で研修の実施を定め、研修後に定着される仕組みまで盛り込んだ。 当該方針に基づき、3月に心理学に基づいた「接客における心の自己管理や顧客心理」、「実習を中心とした接客技術の習得」などをテーマとした研修を行った。 ＜研修計画概要＞ 研修の狙い：「来園者を歓迎する気持ちを表せるようになる」 狙い達成に向けた行動：「来園者への挨拶」「落ちているごみを拾う」 1月以降に研修を実施 → 秋頃に研修効果チェック → 研修実施（チェックで判明した弱点強化等） ※ホスピタリティマインド…提供するサービスの質を高めるための考え方や心持ち。おもてなしの心。		
C	法人の自己評価	Ⅳ	評価理由	計画立案の上、研修を実施したため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅳ	評価理由	研修実施に加えて、一定の効果が確認できたため
	ヒアリング結果	研修計画に基づいて研修を実施している。研修の狙いを達成するために示した行動を意識して伝えた結果、来園者アンケートで「職員からの挨拶が増えた」等の声が複数あるとのことで、計画を上回っていると判断した。		
A	次年度の年度計画	【8】昨年度策定したホスピタリティマインド醸成に関する方針に基づく取組（研修、研修効果定着のための取組みなど、研修効果チェック）を実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		13		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者と接する売店事業者や委託事業者も含めた全ての園内スタッフのホスピタリティマインドを持った対応、園内の美観保持、外国語による情報提供、あらゆる世代が見やすい観覧スペースの設置等、来園者満足度向上に向けた取組を推進する。		
P	中期計画	第1-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者が園内で楽しく過ごすことができるよう、委託事業者も含め、園内で働くスタッフが来園者に対し、ホスピタリティマインドを持って接するための取組みとして研修などを体系的に実施する。定期的な清掃により園内の美観を保持するほか、案内板をはじめとする情報提供の多言語化を図る。さらに、新たに建設する獣舎については、観覧スペースや導線等、子どもや車いす利用者も快適に観覧できる設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても工夫を施し、すべての来園者にとって快適な観覧環境を確保する。		
	年度計画	園内の美観の保持について、定期的に点検する体制と仕組みを構築する。		
	評価事例	Ⅲ	・ 園内美観保持にかかる点検のための体制や仕組みの構築	
		Ⅳ・Ⅴ	・ 点検による改善実績・来園者意見を反映した観覧環境等の改善	
D	行動	・ 見る視点が偏らないようにするため、各課1名ずつ計5名体制で毎月園内を巡視し、現状の報告書を作成する仕組みを構築し10月より毎月実施。 ・ 巡視報告書は一元化し、対応する担当課を決めた上、可能なことから順次対応している。 ・ 報告書は共有のフォルダ内で保存し、誰もがアクセスできる環境としている。 ・ これを踏まえた改善実績が多数挙がっている。 6月：現在の園内状況及び体制等案を6/30理事長報告 7月：各課1名計5名体制で巡視・現状の報告書作成 8月：点検回数、人数、点検項目、点検方法の検討・調整 9月：本格実施に向け実施案決裁済 10月～：本格実施（隔月で北園、南園にて実施） 10月28日北園実施。「園内巡視チェックシート」に記録し、担当課を決め、可能なことから順次対応 「園内巡視チェックシート」は共有フォルダ内に保存している。		
C	法人の自己評価	Ⅳ	評価理由	体制・仕組みを構築のうえ、10月から実施し改善実績多数のため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅳ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	・ 園内美観保持にかかる点検のための体制や仕組みを構築している。 ・ 改善実績も上がっておりⅣ評価とする。		
A	次年度の年度計画	【9】継続して、定期点検を実施し、美観保持に努める。		

評価シート（個票）

通し番号		14	
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。	
		第2-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者と接する売店事業者や委託事業者も含めた全ての園内スタッフのホスピタリティマインドを持った対応、園内の美観保持、外国語による情報提供、あらゆる世代が見やすい観覧スペースの設置等、来園者満足度向上に向けた取組を推進する。	
P	中期計画	第1-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者が園内で楽しく過ごすことができるよう、委託事業者も含め、園内で働くスタッフが来園者に対し、ホスピタリティマインドを持って接するための取組みとして研修などを体系的に実施する。定期的な清掃により園内の美観を保持するほか、案内板をはじめとする情報提供の多言語化を図る。さらに、新たに建設する獣舎については、観覧スペースや導線等、子どもや車いす利用者も快適に観覧できる設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても工夫を施し、すべての来園者にとって快適な観覧環境を確保する。	
	年度計画	園内における情報提供の多言語化指針を策定する。（【9】とも連携）	
	評価事例	Ⅲ	・多言語化指針の策定
		Ⅳ・Ⅴ	・策定した方針を踏まえた多言語化対応の実施
D	行動	12月に多言語化への指針を含む広報戦略を策定した。 <広報戦略（該当箇所）> ・発信情報の多言語化 外国人入園者の約9割がアジアからであることから、英語・中国語・韓国語の3か国語での発信を基本とする。 <u>多言語化対象</u> ・ホームページ（R4年度より実施予定） 園の基本情報、教育普及に繋がる動物の生態や環境問題に関する内容 ・園内掲示（園内掲示物整備アクションプランに基づき順次実施予定） 経路案内、動物パネル、展示のお知らせ、注意事項	
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由 多言語化指針を策定したため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由 法人評価のとおり
	ヒアリング結果	小項目8で策定した広報戦略の中で、多言語化の方針を策定している。現在の多言語化状況を把握した上で、多言語化対象を選別することが出来ているため、計画通りに進んでいると判断できる。	
A	次年度の年度計画	【6】広報戦略（R3策定）に基づいた情報発信を行うとともに、実績を検証し、必要に応じて有識者の意見を聞くなどして、戦略に反映させる。	

評価シート（個票）

通し番号		15		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者と接する売店事業者や委託事業者も含めた全ての園内スタッフのホスピタリティマインドを持った対応、園内の美観保持、外国語による情報提供、あらゆる世代が見やすい観覧スペースの設置等、来園者満足度向上に向けた取組を推進する。		
P	中期計画	第1-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者が園内で楽しく過ごすことができるよう、委託事業者も含め、園内で働くスタッフが来園者に対し、ホスピタリティマインドを持って接するための取組みとして研修などを体系的に実施する。定期的な清掃により園内の美観を保持するほか、案内板をはじめとする情報提供の多言語化を図る。さらに、新たに建設する獣舎については、観覧スペースや導線等、子どもや車いす利用者も快適に観覧できる設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても工夫を施し、すべての来園者にとって快適な観覧環境を確保する。		
	年度計画	ホッキョクグマ舎の基本設計（令和3年度着手）をユニバーサルな観覧環境に配慮したものとする。		
	評価事例	Ⅲ	・ホッキョクグマ舎の基本設計における観覧環境への配慮	
		Ⅳ・Ⅴ	（例示なし）	
D	行動	バリアフリー法など各種法令を遵守した基本設計を実施した。 各種法令の遵守に加え、またドリームデイ・アット・ザ・ズー（障がいのある方を招待）のアンケートの結果を踏まえ、快適に観覧できる環境について各担当（飼育・運営）と適宜意見交換を行った。 ユニバーサルな観覧環境への配慮については、園内案内サインへの採用の考え方を整理し、基本設計にて反映させることができた。 ※ユニバーサルデザイン……障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいようあらかじめ都市や生活環境をデザインするという考え方です。（大阪府福祉局ホームページ「大阪市におけるユニバーサル社会の実現に向けた取組について」より引用）		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	基本設計業務に反映し、順調に実施しているため。
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	ユニバーサルな観覧環境に配慮した基本設計をするにあたり、関係する各種法令を遵守しているのはもちろんのこと、飼育課・運営課と綿密に意見の交換等も行ったうえ、基本設計に反映している。その結果、子どもや高齢者を含むあらゆる人を対象にした園内案内サインを設計することができており、計画どおり進んでいると判断できる。		
A	次年度の年度計画	【11】ホッキョクグマ舎の実施設計を、ユニバーサルな観覧環境に配慮したものとする。		

評価シート（個票）

通し番号		16	
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。	
		第2-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者と接する売店事業者や委託事業者も含めた全ての園内スタッフのホスピタリティマインドを持った対応、園内の美観保持、外国語による情報提供、あらゆる世代が見やすい観覧スペースの設置等、来園者満足度向上に向けた取組を推進する。	
P	中期計画	第1-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者が園内で楽しく過ごすことができるよう、委託事業者も含め、園内で働くスタッフが来園者に対し、ホスピタリティマインドを持って接するための取組みとして研修などを体系的に実施する。定期的な清掃により園内の美観を保持するほか、案内板をはじめとする情報提供の多言語化を図る。さらに、新たに建設する獣舎については、観覧スペースや導線等、子どもや車いす利用者も快適に観覧できる設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても工夫を施し、すべての来園者にとって快適な観覧環境を確保する。	
	年度計画	直営時から実施しているゲートへのアンケート箱設置に加え、さらに多くの来園者からの声を収集し、分析検証、園運営へ反映させる仕組みを構築する。	
	評価事例	Ⅲ	・直営時以上の来園者満足度や意見を把握する手法の構築
		Ⅳ・Ⅴ	・構築した手法を踏まえ来園者からの声を収集・分析の上、園運営への反映実績
D	行動	10月に仕組みを構築し、毎月100件を目標にアンケート収集している。 ①収集方法 ・ホームページ上にアップしPC・スマホで回答いただく QRコードを園内の各所（休憩場所等）に掲示 ・今年度（10月～3月）は、ネットでの収集数を見ながら園内で特設ブースを設け、職員が1人張り付き対応する。 （例えば、毎月15日以降の土・日・祝の15:00～16:00で収集、回答者には缶バッジプレゼントなど） ・アンケート内容はホームページ、園内聞き取り共に同じ内容とする。 ②アンケート結果は月毎に運営課で集計、検証。法人内会議で報告し、対応を検討する。 ≪実績≫ ・10月～3月の間で521件収集 ・声を踏まえて即改善できることは実施済み 例：入園予約のHP画面をよりわかりやすく変更、授乳室等掲示の改善など	
C	法人の自己評価	Ⅳ	評価理由 予約画面の変更など、反映実績があるため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅳ	評価理由 法人評価のとおり
	ヒアリング結果	アンケートを園内だけでなく、HP上でも収集できるような仕組みを構築し、より幅広い声を収集できるようになった。 またⅣ評価相当事例の反映実績も上がっている。	
A	次年度の年度計画	【12】継続して、来園者の声を分析し園運営に反映する、（HP・SNS含む。）	

評価シート（個票）

通し番号		17		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者と接する売店事業者や委託事業者も含めた全ての園内スタッフのホスピタリティマインドを持った対応、園内の美観保持、外国語による情報提供、あらゆる世代が見やすい観覧スペースの設置等、来園者満足度向上に向けた取組を推進する。		
P	中期計画	第1-1-(4) 質の高い来園者サービスの提供 来園者が園内で楽しく過ごすことができるよう、委託事業者も含め、園内で働くスタッフが来園者に対し、ホスピタリティマインドを持って接するための取組みとして研修などを体系的に実施する。定期的な清掃により園内の美観を保持するほか、案内板をはじめとする情報提供の多言語化を図る。さらに、新たに建設する獣舎については、観覧スペースや導線等、子どもや車いす利用者も快適に観覧できる設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても工夫を施し、すべての来園者にとって快適な観覧環境を確保する。		
	年度計画	来園者の意見も踏まえWeb決済も含めてキャッシュレス決済の拡充を検討する。		
	評価事例	Ⅲ	・キャッシュレス決済拡充の検討	
		Ⅳ・Ⅴ	・キャッシュレス決済の拡充による来園者からの高評価	
D	行動	以下のとおり、キャッシュレス決済の拡充を実施した。 ①ファンクラブ入会金支払いにクレジットカード払いを導入 ②寄附について、クレジット払いを導入 導入後、ファンクラブ・寄附共に約5割がクレジット払いを活用されている。 また、クレジット払い導入後、個人からの寄附額が増加した。 次年度へ向けて、入園時のキャッシュレス（電子マネー等）対応について、業務委託先との調整を行い、方針を今年度中に定めている。		
C	法人の自己評価	Ⅳ	評価理由	寄附、ファンクラブ制度にクレジット払いを導入したため
	市の評価（案）	Ⅳ	評価理由	クレジット払いを導入したことに加え、活用実績が上がっているため
	ヒアリング結果	キャッシュレス決済拡充を検討し、寄附やファンクラブについては導入を実践している。導入以降の活用率は約5割で、顧客ニーズにも合致していると判断できる。 また寄附の件数も増えているとのことで、収入増にも寄与しており、計画を上回る結果であると判断した。		
A	次年度の年度計画	【13】昨年度拡充したクレジット払いの運用実績や来園者などの関係者の声を踏まえ、園の決済環境を網羅的に検討のうえ、さらなるキャッシュレス拡充にかかる方針を決定する。		

評価シート（個票）

通し番号		18	
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。	
		第2-2-(1) 間近で動物を感じる機会の提供 飼育動物の展示、「ごはんタイム・おやつタイム」の実施、餌やり体験や「ふれあい広場」の運営等を通じ、リアルな動物を見る、声を聴く、においを感じる等の生きている証に出会う機会を提供する	
P	中期計画	第1-2-(1) 間近で動物を感じる機会の提供 ごはんタイム・おやつタイムの実施や動物への餌やり体験等、新たなふれあい広場の運営を通じ、来園者が間近を感じる機会を提供する。 また、お客様のニーズや満足度を把握する等、展示効果の検証を行いつつ、間近で行動的な動物が見られる展示となるような取り組みを進める。	
	年度計画	法人の動物福祉倫理規定を踏まえ、ふれあい事業に対する当園の方針を定め（上半期）、これに整合する具体的な「プログラム」を策定のうえ、事業の検証可能な状態で「新ふれあい広場」の開業を迎える。（令和4年春予定）	
	評価事例	Ⅲ	・上半期に方針、新ふれあい広場オープンまでに「プログラム」の策定
		Ⅳ・Ⅴ	（例示なし）
D	行動	動物福祉に配慮して、「運用方針」及び具体的な「プログラム」を策定。 ●「方針」の概要 ・イベント実施に際しては、動物が自発的に参加するか否かの選択ができるようにする。 ・イベントの参加には、動物個体の特性や年齢等も考慮する。 ・運営に関わる全てのスタッフに、動物の行動に関する教育を実施し、適切な案内が行えるようにする。 ・日々モニタリングを行い、定期的に評価を実施する。 ●「プログラム」の概要 ①みんなでつくるあそびのじかん 従前のペレットの無人販売をとりやめ、来園者が購入したペレットをフィーダー（給餌器）に入れて、放飼場に設置し、動物が転がしたり、突いたりして食べる様子を観察する形式に変更。 ②テンジクネズミのかんさつじかん（R4.5まではコロナで中止） 従前の膝に乗せてなでたりする方法をとりやめ、動物が近づいてきた場合には優しく触れる、嫌がった場合は見守るなどの注意事項をレクチャーしながらの実施方法に変更。 獣舎完成後の引っ越し後から現在に至るまで、日々モニタリングを継続している。	
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由 新ふれあい広場オープンまでに方針及びプログラムを策定したため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由 法人評価のとおり
	ヒアリング結果	方針及び具体的なプログラムを策定している他、事業検証として「引越し前後の動物の様子をモニタリング比較」や「プログラム参加者対象のアンケート結果分析」を実施していることを確認しており、計画どおりに達成できている。	
A	次年度の年度計画	【14】ふれあい事業に関する方針を踏まえたプログラムに基づき新ふれあい広場の運営を行い、実績を検証のうえ、必要に応じてプログラム若しくは事業に関する方針を修正する。	

評価シート（個票）

通し番号		19		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-2-(1)間近で動物を感じる機会の提供 飼育動物の展示、「ごはんタイム・おやつタイム」の実施、餌やり体験や「ふれあい広場」の運営等を通じ、リアルな動物を見る、声を聴く、においを感じる等の生きている証に出会う機会を提供する		
P	中期計画	第1-2-(1) 間近で動物を感じる機会の提供 ごはんタイム・おやつタイムの実施や動物への餌やり体験等、新たなふれあい広場の運営を通じ、来園者が間近を感じる機会を提供する。 また、お客様のニーズや満足度を把握する等、展示効果の検証を行いつつ、間近で行動的な動物が見られる展示となるような取り組みを進める。		
	年度計画	プログラムの策定にあたっては、感染症防止対策に留意する。		
	評価事例	Ⅲ	・感染症対策に留意したプログラムの策定	
		Ⅳ・Ⅴ	(例示なし)	
D	行動	ふれあいプログラムの策定にあたっては、感染症対策として人数制限を行うとともに、テンジクネズミのかんさつじかんは、当面実施しないこととした。 ※テンジクネズミは屋内施設での観察とする。（エリア内通路側からガラス越しにテンジクネズミの観察可能） 新型コロナウイルス感染症防止対策・人獣共通感染症（zoonosis）防止対策を並行して行うこととした。今後の感染状況を踏まえながら、開催できるプログラムは再開していく予定である。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	感染症対策に留意したプログラムの策定をしたため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	手洗い・アルコール消毒・検温等を実施している。各感染症対策について文書の形で取りまとめ、消毒のタイミング等も詳細に記載している。		
A	次年度の年度計画	【59】法人と委託先事業者が協力のうえ、新型コロナウイルスの感染状況に応じた適切な対策を講じる。（職員の健康管理を含む。）		

評価シート（個票）

通し番号		20		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-2-(2) 園内外における学習機会の提供 職員が園内で実施する教育普及プログラムや企画展の実施、天王寺動物園に所蔵している剥製標本等の動物資料の展示や解説パネルの設置等を通じ、園内における学習機会を提供する。また、学校での授業に活用できる教育プログラムキットの貸出しや教員研修への協力等を通じ、園外における学習機会を提供する。		
P	中期計画	第1-2-(2) 園内外における学習機会の提供 教育ポリシー・新学習棟活用を踏まえた、当園の教育普及活動に関するアクションプログラムに基づき園内外における学習機会の提供を行いながら、受講者・来園者調査に基づき、継続的に提供するメニューやその内容、アクションプログラムの改善を図るサイクルが回っている状態を目指す。また、来園者に動物の魅力及び生息地の状況が伝わるようなパネル展示を継続して実施する。さらに、多様な教育普及の観点から、NPO法人・ボランティア・大学との連携協定の締結などにより協働体制を構築する。		
	年度計画	教育ポリシー・新学習棟の活用を踏まえた教育普及アクションプログラムに基づき園内外におけるメニューを実践する。		
	評価事例	Ⅲ	・アクションプログラムに基づいたメニューの実施	
		Ⅳ・Ⅴ	・実施したメニューを分析し、次回以降の改善案を策定	
D	行動	令和3年度実績 ●ディスカバープログラム実施 ・ズー・スクール（講話） 実施27件 ・職場紹介（学習棟7件・会議室2件） 実施10件 ・出張講話 実施12件 ・ガイドウォーク 実施1件 ・貸出キット 3件 ●11月3～4日 獣医ショー開催（ミュージー） ●12月21日～1月10日 干支の動物園展開催 ●3月15日～4月10日 生物多様性展 ※7月「タカラベルモント共催イベント」、10月「TenZooこどもチャレンジ」は、新型コロナ拡大防止対策のため中止 10月（教育アクションプラン策定）以降、3つの視点（親しみやすさ・行動の選択肢・即改善）を踏まえてメニューを実施した。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	教育普及アクションプログラムに基づいたメニューを実施したため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	項目4で策定した教育普及アクションプラン内で定めたプログラムを基に着実に実施しており、計画通りであると判断した。		
A	次年度の年度計画	【15】教育普及アクションプログラム（R4版）に基づいたメニューを実施するとともに、結果を検証し、必要に応じて他メニュー、プログラムに反映する。		

評価シート（個票）

21

通し番号		21		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-2-(2) 園内外における学習機会の提供 職員が園内で実施する教育普及プログラムや企画展の実施、天王寺動物園に所蔵している剥製標本等の動物資料の展示や解説パネルの設置等を通じ、園内における学習機会を提供する。また、学校での授業に活用できる教育プログラムキットの貸出しや教員研修への協力等を通じ、園外における学習機会を提供する。		
P	中期計画	第1-2-(2) 園内外における学習機会の提供 教育ポリシー・新学習棟活用を踏まえた、当園の教育普及活動に関するアクションプログラムに基づき園内外における学習機会の提供を行いながら、受講者・来園者調査に基づき、継続的に提供するメニューやその内容、アクションプログラムの改善を図るサイクルが回っている状態を目指す。また、来園者に動物の魅力及び生息地の状況が伝わるようなパネル展示を継続して実施する。さらに、多様な教育普及の観点から、NPO法人・ボランティア・大学との連携協定の締結などにより協働体制を構築する。		
	年度計画	各メニューでは、受講者・参加者へのアンケートを実施するなど改善の具体的な材料を収集のうえ、前項アクションプログラムに反映する。		
	評価事例	Ⅲ	・参加者へのアンケート実施及び改善事項の収集、アクションプログラムへの反映	
		Ⅳ・Ⅴ	・アンケート結果の収集に基づいたアクションプログラムへの反映改善実績	
D	行動	・イベント時はQRコードを用いたアンケートを、継続実施。 ・学校向けプログラムのアンケートには、「環境保全に対して身近にできること（行動変容）」を記載していただき、意識づけを行った。 ・改善事項の収集と分析を行い、3月末までにアクションプランに反映していった。 ・また、アンケートでディスカバリープログラム（講話）の内容に対する意見を収集し、内容改善に繋げた。（出張レクチャーの申込み対象の拡大等）		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	事例収集の上、アクションプログラムへ反映したため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	各プログラムでアンケートを実施し、その中に教育普及アクションプランの3つの視点のうち、特に重要視している「行動変容」を促す項目を組込んでいる。（例：環境保全に対して身近で出来ることは何か） また、アンケート結果を基に各プログラムの対象者を拡大したり、情報発信方法の改善といった次年度プログラムへの反映を検討しているため、計画通りに進んでいると判断した。		
A	次年度の年度計画	【15】教育普及アクションプログラム（R4版）に基づいたメニューを実施するとともに、結果を検証し、必要に応じて他メニュー、プログラムに反映する。		

評価シート（個票）

通し番号		22		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-2-(2) 園内外における学習機会の提供 職員が園内で実施する教育普及プログラムや企画展の実施、天王寺動物園に所蔵している剥製標本等の動物資料の展示や解説パネルの設置等を通じ、園内における学習機会を提供する。また、学校での授業に活用できる教育プログラムキットの貸出しや教員研修への協力等を通じ、園外における学習機会を提供する。		
P	中期計画	第1-2-(2) 園内外における学習機会の提供 教育ポリシー・新学習棟活用を踏まえた、当園の教育普及活動に関するアクションプログラムに基づき園内外における学習機会の提供を行いながら、受講者・来園者調査に基づき、継続的に提供するメニューやその内容、アクションプログラムの改善を図るサイクルが回っている状態を目指す。また、来園者に動物の魅力及び生息地の状況が伝わるようなパネル展示を継続して実施する。さらに、多様な教育普及の観点から、NPO法人・ボランティア・大学との連携協定の締結などにより協働体制を構築する。		
	年度計画	各メニューでは、受講者等参加者が自らの判断で選択可能かつ、即実践可能な行動の選択肢（寄付・エシカル商品購入など）を用意する。		
	評価事例	Ⅲ	・行動の選択肢の提示	
		Ⅳ・Ⅴ	・受講後、参加者の相当数の意識の変化（アンケート結果など） ・参加者の寄附等の実績	
D	行動	【今年度実績】 ・アンケートに参加者の意識の変化に関する項目を設け、実践を促した。 ・干支の動物園展では、WWFジャパンの保全のための募金を選択肢として用意した。 ・下半期実施のイベント等では、ファンクラブ募集案内看板をイベント毎に設置し、積極的に紹介した。 （ファンクラブで集めた会費を動物の健康管理や教育普及等に活用することで、結果として動物保全に繋がるため） ・干支展・生物多様性展においても、看板だけでなく、ファンクラブ募集のリーフレットも置いて入会を促した。 【次年度へ向けて】 ・次年度以降も、コロナの状況を見据えつつ、即実践可能な行動の選択肢のできるイベントを企画する。 ・次年度は、選択肢の一つとして教育普及プログラムにボランティア活動のメニューを加える予定。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	行動の選択肢を提示したため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	企画展で動物の生息地環境について学び、行動の選択肢として域内保全に繋がる募金を実施するといった、来園者の意識の変容を促すような取組みを行っている。 また今後のプログラムでの実施内容も検討しており、計画通りに進んでいると判断した。		
A	次年度の年度計画	【15】教育普及アクションプログラム（R4版）に基づいたメニューを実施するとともに、結果を検証し、必要に応じて他メニュー、プログラムに反映する。		

評価シート（個票）

通し番号		23	
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-2-(2) 園内外における学習機会の提供 職員が園内で実施する教育普及プログラムや企画展の実施、天王寺動物園に所蔵している剥製標本等の動物資料の展示や解説パネルの設置等を通じ、園内における学習機会を提供する。また、学校での授業に活用できる教育プログラムキットの貸出しや教員研修への協力等を通じ、園外における学習機会を提供する。	
P	中期計画	第1-2-(2) 園内外における学習機会の提供 教育ポリシー・新学習棟活用を踏まえ、当園の教育普及活動に関するアクションプログラムに基づき園内外における学習機会の提供を行いながら、受講者・来園者調査に基づき、継続的に提供するメニューやその内容、アクションプログラムの改善を図るサイクルが回っている状態を目指す。また、来園者に動物の魅力及び生息地の状況が伝わるようなパネル展示を継続して実施する。さらに、多様な教育普及の観点から、NPO法人・ボランティア・大学との連携協定の締結などにより協働体制を構築する。	
	年度計画	多言語も含めた掲示物作成方針を策定する。（【14】とも連携）	
	評価事例	Ⅲ	・ 掲示物整備方針の策定
		Ⅳ・Ⅴ	・ 策定した方針を踏まえた掲示の実施
D	行動	12月に多言語化への指針を含む広報戦略を策定した。 ＜広報戦略（該当箇所）＞ 掲示物の作成（整備）方針 <u>園内掲示物について</u> ・ 獣舎リニューアルも踏まえ、統一的かつ効果的なマップ・経路案内の意匠および配置を検討する。 ・ 現状の来園者意見等を踏まえ、分かりにくいものや美観を損ねるものへの応急的対応を実施する。 ・ 企業PR等、変化の速いものはデジタルサイネージの活用も視野に入れる。 <u>動物の解説について</u> ・ 生息地情報を必須項目とする。（二次元コードの活用が基本） ・ 意匠統一の必要性を検討した上で順次実施する。 R4年度：本方針に基づき「園内掲示物整備アクションプラン」策定予定	
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由 掲示物整備方針を策定したため （評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由 法人評価のとおり
	ヒアリング結果	項目8で策定した広報戦略の中で、掲示物作成方針を策定している。また、令和4年度に園内掲示物整備アクションプランが策定予定であり、計画通り進捗していると判断した。	
A	次年度の年度計画	【6】広報戦略（R3策定）に基づいた情報発信を行うとともに、実績を検証し、必要に応じて有識者の意見を聞くなどして、戦略に反映させる。	

評価シート（個票）

通し番号		24					
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。					
		第2-2-(2) 園内外における学習機会の提供 職員が園内で実施する教育普及プログラムや企画展の実施、天王寺動物園に所蔵している剥製標本等の動物資料の展示や解説パネルの設置等を通じ、園内における学習機会を提供する。また、学校での授業に活用できる教育プログラムキットの貸出しや教員研修への協力等を通じ、園外における学習機会を提供する。					
P	中期計画	第1-2-(2) 園内外における学習機会の提供 教育ポリシー・新学習棟活用を踏まえた、当園の教育普及活動に関するアクションプログラムに基づき園内外における学習機会の提供を行いながら、受講者・来園者調査に基づき、継続的に提供するメニューやその内容、アクションプログラムの改善を図るサイクルが回っている状態を目指す。また、来園者に動物の魅力及び生息地の状況が伝わるようなパネル展示を継続して実施する。さらに、多様な教育普及の観点から、NPO法人・ボランティア・大学との連携協定の締結などにより協働体制を構築する。					
	年度計画	感染症拡大防止対策に留意し、教育プログラムを行う。					
	評価事例	Ⅲ	・感染症防止対策に留意したプログラムの実施				
		Ⅳ・Ⅴ	・策定した方針を踏まえた掲示の実施				
D	行動	・コロナ禍においては感染拡大予防対策として、新学習棟ホール（収容最大席240名）での講話については100名以下に制限した。 ・学習棟出入り口自動扉は常時開放し換気をした。さらに足踏み式アルコール消毒液を設置した。 ・戦時中の動物園展においては、会場出入り口開放し室内換気とアルコール消毒に務めた。 ・ディスカバープログラム（講話・職場紹介）においては、受入れ人数を制限しソーシャルディスタンスを保ち実施した。 ・コロナ緩和となり、棟内こども休憩スペース（キッズライブラリー）を毎日消毒の上開放した。 学習棟の利用状況（4月～10月） <table border="1"> <tr> <td>ズー・スクール（講話）</td> <td>18件</td> </tr> <tr> <td>職場紹介</td> <td>5件</td> </tr> </table> ※当面の間は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため対策を継続しながら実施していく。		ズー・スクール（講話）	18件	職場紹介	5件
ズー・スクール（講話）	18件						
職場紹介	5件						
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	感染症拡大防止対策に留意したプログラムを実施したため（評価事例のとおり）			
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり			
	ヒアリング結果	プログラム内容に応じて、人数制限の実施や換気・消毒の徹底の上プログラムを実施しているため、計画通りに進んでいると判断した。					
A	次年度の年度計画	【59】法人と委託先事業者が協力のうえ、新型コロナウイルスの感染状況に応じた適切な対策を講じる。（職員の健康管理を含む。）					

評価シート（個票）

通し番号		25		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-2-(3) NPO法人・ボランティア等との協働による学習機会の提供 希少動物の保護や環境保護の取組を行っているNPO法人やボランティア等と協働した独自のキャンペーン等により学習機会を提供するとともに、園外で実施されるキャンペーン等にも積極的に参画することで広く学習機会を提供する		
P	中期計画	第1-2-(2) 園内外における学習機会の提供 教育ポリシー・新学習棟活用を踏まえた、当園の教育普及活動に関するアクションプログラムに基づき園内外における学習機会の提供を行いながら、受講者・来園者調査に基づき、継続的に提供するメニューやその内容、アクションプログラムの改善を図るサイクルが回っている状態を目指す。また、来園者に動物の魅力及び生息地の状況が伝わるようなパネル展示を継続して実施する。さらに、多様な教育普及の観点から、NPO法人・ボランティア・大学との連携協定の締結などにより協働体制を構築する。		
	年度計画	これまで実施されていた、NPO法人・ボランティア等との協働メニューを検証し、教育ポリシーを踏まえ継続・発展させていくべきものを選択し、戦略的な協働メニューを策定のうえ、教育普及アクションプログラムに反映させる。		
	評価事例	Ⅲ	・戦略的な協働メニューを策定のうえ、令和4年度版教育普及アクションプログラムへ反映	
		Ⅳ・Ⅴ	・NPO法人・ボランティア等との協働による活動実績	
D	行動	【企業等との協働】 ○これまでの企業等との協働イベントを検証し、次の4つを継続実施した。 ・動物と植物のつながりクイズ スタンプラリー（長居植物園） ・みつけてそろえてビンゴラリー（大阪トヨペット株式会社） ・カバのテツオ君と歯みがき教室&クイズラリー（大阪府歯科医師会、毎日新聞社、デンタルプロ株式会社） ・「プロQ学園」における獣医師による講話と吹き矢体験（あべのキューズモール東急不動産） ○新たなNPO等との協働メニューの策定に向けて、連携相手先を模索した。 ・大阪府とのイベント時に府下NPO団体の情報収集 ・環境局関連のNPO団体について情報収集 【ボランティアとの協働】 ○現在のボランティア団体の活動を整理のうえ、ボランティアの今後のあり方について整理した。 ・当園が期待するボランティア活動メニューや既存ボランティアでの活動状況等を分析した。 ・既存ボランティアに加え、新制度立ち上げ方針を決定した。 新制度の活動内容は「園主催のイベント補助（習熟に応じて園内ガイド等も実施）」を予定 ・次年度の教育アクションプログラム実施時の行動変容の選択肢となるよう整理した。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	戦略的な協働メニューを策定の上、令和4年度版教育普及アクションプログラムへ反映したため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	企業等との協働イベントについて検証の上、継続するイベントを選択しているだけでなく、新たな協働メニュー策定に向けて相手先を模索している。 ボランティアについては、参加者の若返りや活動内容の拡大を見据え、新制度の立ち上げ方針を策定していることから、計画通りに進んでいると判断した。		
A	次年度の年度計画	【16】新たなボランティア制度をスタートさせる。		

評価シート（個票）

通し番号		26	
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。	
		第2-3-(1) 動物福祉に配慮した飼育の実践 動物園という限られた環境の中でも飼育動物の生活の質を高め、健康で生き生きと暮らせるよう、動物福祉に配慮した飼育を実践する。この際、環境エンリッチメント（動物福祉の立場から、飼育動物の幸福な暮らしを実現するための具体的な方策）やハズバンダリートレーニング（動物の自発的行動を発現させるような飼育手法を用いて、飼育者が望む行動を飼育動物に発現させるためのトレーニング）にも天王寺動物園全体として取り組むとともに、飼育技術の高度化に取り組む	
P	中期計画	第1-3-(1) 動物福祉に配慮した飼育の実践 動物福祉に配慮した飼育を実践するために、環境エンリッチメントやハズバンダリートレーニングに園全体として取り組んでいく。 取組みにあたっては、一定の考え方のもと体系的に行うとともに、定期的な検証を踏まえるほか、現在実践している飼育メニューも改めて点検のうえ、マニュアル化するとともに人材の教育・研修体制を構築する。	
	年度計画	日常的な飼育管理を適切に行うとともに、定期的な検証を行い、適宜飼育作業マニュアルに反映させる。（【64】と関連）	
	評価事例	Ⅲ	・定期的検証と適宜反映の実施
		Ⅳ・Ⅴ	（例示なし）
D	行動	年2回の定期検証（3月、9月）を実施した。必要があればマニュアルの改訂を行う。（令和3年度のマニュアル改訂は実績なし） ＜検証内容＞ ・マニュアル通りに作業を行っているかの確認 ・安全面等でマニュアルに変更すべき点がないかの検討（過去に変更実績有） ＜マニュアル変更要因例＞ 獣舎整備、動物の頭数・種数、職員安全面 ※飼育作業マニュアル：最も危険が伴う動物の放飼時と収容時の手順を獣舎ごとに詳細に規定したもの。 【参考】 飼育作業マニュアル以外のマニュアル有無：特になし（緊急時用のみ有） （理由）職員に自発的に動物の状態を把握させるために、敢えてマニュアルを作らず実体験をもってその他の作業を行わせている（作業内容の硬直化を防ぐ）。 別途各個体の状態等の記録は残している。	
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由 定期的な検証を実施したため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由 法人評価のとおり
	ヒアリング結果	定期検証を行っており、検証時にマニュアルの不備や実態との整合性等の検討も併せて行っている。	
A	次年度の年度計画	【17】ヒヤリハット事例の共有や飼育作業マニュアルの実施状況の定期的な確認と、必要に応じた改定を継続する。	

評価シート（個票）

27

通し番号		27		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-3-(1) 動物福祉に配慮した飼育の実践 動物園という限られた環境の中でも飼育動物の生活の質を高め、健康で生き生きと暮らせるよう、動物福祉に配慮した飼育を実践する。この際、環境エンリッチメント（動物福祉の立場から、飼育動物の幸福な暮らしを実現するための具体的な方策）やハズバンダリートレーニング（動物の自発的行動を発現させるような飼育手法を用いて、飼育者が望む行動を飼育動物に発現させるためのトレーニング）にも天王寺動物園全体として取り組むとともに、飼育技術の高度化に取り組む		
P	中期計画	第1-3-(1) 動物福祉に配慮した飼育の実践 動物福祉に配慮した飼育を実践するために、環境エンリッチメントやハズバンダリートレーニングに園全体として取り組んでいく。 取組みにあたっては、一定の考え方のもと体系的に行うとともに、定期的な検証を踏まえるほか、現在実践している飼育メニューも改めて点検のうえ、マニュアル化するとともに人材の教育・研修体制を構築する。		
	年度計画	動物福祉倫理規程を踏まえて法人として環境エンリッチメント及びハズバンダリートレーニングを適用する対象種を改めて検討（拡充）のうえ、取組み方針（計画）を策定する。		
	評価事例	Ⅲ	・取組み方針の策定	
		Ⅳ・Ⅴ	・方針を踏まえた拡充実績	
D	行動	以下のとおり、「環境エンリッチメントおよびハズバンダリートレーニング取組み方針」を策定。 【方針の概要】 ●環境エンリッチメントの対象 ・ 獣舎がコンクリート造など環境が陳腐になりがちな施設で飼育する動物 ・ クマやサルなど異常行動が発現しやすい種を中心 ・ 対象種数：全約200種中60種 ●ハズバンダリートレーニングの対象 ・ 精緻な健康管理が必要な高齢個体 ・ 繁殖を推進する希少種を中心 ・ 対象種数：全約200種中42種 ●5年後（令和7年）にはすべての対象施設及び種において各取組が実施されている状態をめざす。 【R3中の実施状況】（ ）内はR2実績 エンリッチメント：60種中 54種（30種） ハズバンダリー：42種中 28種（9種）		
C	法人の自己評価	Ⅳ	評価理由	取組方針の策定に加え、拡充実績が上がったため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅳ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	従前は各動物種の担当者の自主性に任せており、取組み状況にばらつきがあったが、法人化後は方針を策定しの上、目標値を定めたことで、園全体で取り組むようになった。またこれらの取組の実施にあたり、職員への専門分野研修などにも取り組んでいる。 種ごとに難易度が異なり、実施種数のみで判断できない面もあるが、昨年度実績からの伸びを見る限り、現在の実績はⅣ評価相当と判断する。		
A	次年度の年度計画	【18】環境エンリッチメント、ハズバンダリートレーニングに関する方針（R3策定）に基づき、取組中の種について継続実施するとともに、効果を検証し、実施種数を増やす。		

評価シート（個票）

通し番号		28	
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。	
		第2-3-(1) 動物福祉に配慮した飼育の実践 動物園という限られた環境の中でも飼育動物の生活の質を高め、健康で生き生きと暮らせるよう、動物福祉に配慮した飼育を実践する。この際、環境エンリッチメント（動物福祉の立場から、飼育動物の幸福な暮らしを実現するための具体的な方策）やハズバンダリートレーニング（動物の自発的行動を発現させるような飼育手法を用いて、飼育者が望む行動を飼育動物に発現させるためのトレーニング）にも天王寺動物園全体として取り組むとともに、飼育技術の高度化に取り組む	
P	中期計画	第1-3-(1) 動物福祉に配慮した飼育の実践 動物福祉に配慮した飼育を実践するために、環境エンリッチメントやハズバンダリートレーニングに園全体として取り組んでいく。 取組みにあたっては、一定の考え方のもと体系的に行うとともに、定期的な検証を踏まえるほか、現在実践している飼育メニューも改めて点検のうえ、マニュアル化するとともに人材の教育・研修体制を構築する。	
	年度計画	環境エンリッチメント及びハズバンダリートレーニングに関する技術知識の共有を図る。 （ミーティング・研修教育）	
	評価事例	Ⅲ Ⅳ・Ⅴ	・ミーティング・研修の実施 ・市民や来園者を対象とした取組の理解を深める講演会等の実施 ・ハズバンダリートレーニングの取組み職員数が大幅増加
D	行動	環境エンリッチメント及びハズバンダリートレーニングの取組を推進するため、以下の研修を行った。 【当初の研修計画に基づいた研修】 ●「天王寺動物園 倫理と福祉の基準」の研修 【研修計画外で追加で実施した研修】 ●「行動分析学」及び「栄養学」にかかる研修 「行動分析学」についてはケーススタディによる勉強会を継続実施 【その他の取組】 ●環境エンリッチメント及びハズバンダリートレーニングの取組を来園者にも知っていただくため、9月に一般来園者向けの講演会「高齢動物と動物福祉講演会」を実施	
C	法人の自己評価	Ⅳ	評価理由 職員研修に加え、動物福祉への理解を深める一般来園者向けの講演会を実施したため （評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅳ	評価理由 法人評価のとおり
	ヒアリング結果	環境エンリッチメントやハズバンダリートレーニングの取組を強化する中で、それらの取組の本来の目的を学ぶ必要性があったことから、新たに行動分析学と栄養学の研修を職員提案で開催している。 これにより職員の意識の底上げが図られており、取組種実績の大幅な伸びにもつながっていると考えられる。 またそれに加えて、来園者向けにも知っていただく機会を設けるなど、計画以上の実績が上っていると評価できる。	
A	次年度の年度計画	【34】人材育成方針及び計画に基づき研修を実施するとともにアンケート、効果、業界で求められるスキルを踏まえ研修計画を随時見直す。	

評価シート（個票）

通し番号		29	
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。	
		第2-3-(1) 動物福祉に配慮した飼育の実践 動物園という限られた環境の中でも飼育動物の生活の質を高め、健康で生き生きと暮らせるよう、動物福祉に配慮した飼育を実践する。この際、環境エンリッチメント（動物福祉の立場から、飼育動物の幸福な暮らしを実現するための具体的な方策）やハズバンダリートレーニング（動物の自発的行動を発現させるような飼育手法を用いて、飼育者が望む行動を飼育動物に発現させるためのトレーニング）にも天王寺動物園全体として取り組むとともに、飼育技術の高度化に取り組む	
P	中期計画	第1-3-(1) 動物福祉に配慮した飼育の実践 動物福祉に配慮した飼育を実践するために、環境エンリッチメントやハズバンダリートレーニングに園全体として取り組んでいく。 取組みにあたっては、一定の考え方のもと体系的に行うとともに、定期的な検証を踏まえるほか、現在実践している飼育メニューも改めて点検のうえ、マニュアル化するとともに人材の教育・研修体制を構築する。	
	年度計画	動物福祉の観点から現病院のあり方を検討する。	
	評価事例	Ⅲ	・あり方の検討
		Ⅳ・Ⅴ	・基本計画作成につながる「新動物病院計画の与条件整理表」の確定
D	行動	101計画をはじめとする各種計画（動物導入計画や獣舎整備計画など）と、必要とする治療・研究環境を考慮しながら、各担当（飼育・診療）との意見交換を行うとともに、動物病院のあり方の参考とする情報を収集するため大阪府立大学獣医臨床センターに視察等を行った。 上記の内容を園内で共有し検討を重ね、動物福祉の観点からの動物病院のあり方を策定することができた。	
C	法人の自己評価	Ⅳ	評価理由 検討の結果、「動物福祉の観点からの動物病院のあり方」のとりまとめができたため
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由 検討結果を文書化したに留まり、計画を上回って実施しているとは言えないため
	ヒアリング結果	病院のあり方について検討を重ね、とりまとめ結果を文書化しているが、Ⅳ評価に相当するような次のステップ（与条件整理表の作成など）には達しておらず、計画を上回っているとは言えないと判断し、Ⅲ評価とする。	
A	次年度の年度計画	【19】新病院の基本計画作成につながる「新動物病院計画の与条件整理表」を作成する。	

評価シート（個票）

通し番号		30		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-3-(2) 動物福祉に配慮した獣舎整備の推進 施設整備計画に基づき、園内の獣舎整備を推進し、新たに建設する獣舎については、広さ、構造、設備等、世界に通用する飼育基準に適合した設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても、改善や工夫を施し、動物にとって適切な飼育環境を確保する。		
P	中期計画	第1-3-(2) 動物福祉に配慮した獣舎整備の推進 新たに建設する獣舎については、日本動物園水族館協会が示すガイドライン以上の広さ、構造、設備等を備えた設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても、工夫を施し、動物福祉に配慮した飼育環境を確保する。 また、既存獣舎についても、維持管理計画に基づき適切な点検・補修を継続するとともに、動物福祉の観点も踏まえた小規模改良を実施する。		
	年度計画	ふれあい家畜・小動物舎、ペンギンアシカ舎、ホッキョクグマ舎の計画に応じた設計や整備を着実に実施する。		
	評価事例	Ⅲ Ⅳ・Ⅴ	・ホッキョクグマ舎等の計画どおりの進捗 (例示なし)	
D	行動	①ふれあい家畜・小動物舎整備について 工事担当（都市整備局、施工業者）との定例会議への参加等し、施工状況、工程に問題がないかを確認し、必要に応じて速やかに指示を行うとともに、円滑な工事進捗が図れるよう、的確に情報共有・各種調整を行った。 ②ペンギンアシカ舎整備について 契約後、速やかな工事着手にむけ、工事担当（都市整備局、施工業者）とミーティングを行うとともに、円滑な工事進捗が図れるよう、的確に情報共有・各種調整を行った。 ③ホッキョクグマ舎の基本設計について 地方独立行政法人としての委託発注方式を検討（博物館機構などの事例収集）し、プロポーザル方式で業者を決定し契約を締結することができ、年度内に計画とおり、成果品（基本設計書）を完成させることができた。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	各獣舎とも工事又は設計業者と契約済みで予定通りの進捗のため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	R3年度実施予定であった獣舎の設計または工事については契約を締結することができている。 ふれあい家畜・小動物舎の工事においても、想定していない存置不明な基礎撤去があり工期延期は生じたものの工事を完了させることができ、ホッキョクグマ舎の基本設計についても、R4年度の実施設計に向け、計画どおりに終わらせることができ、計画どおり進んでいると判断できる。		
A	次年度の年度計画	【20】 ペンギンアシカ舎、ホッキョクグマ舎等獣舎の計画に応じた設計や整備を着実に実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		31		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-3-(2) 動物福祉に配慮した獣舎整備の推進 施設整備計画に基づき、園内の獣舎整備を推進し、新たに建設する獣舎については、広さ、構造、設備等、世界に通用する飼育基準に適合した設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても、改善や工夫を施し、動物にとって適切な飼育環境を確保する。		
P	中期計画	第1-3-(2) 動物福祉に配慮した獣舎整備の推進 新たに建設する獣舎については、日本動物園水族館協会が示すガイドライン以上の広さ、構造、設備等を備えた設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても、工夫を施し、動物福祉に配慮した飼育環境を確保する。 また、既存獣舎についても、維持管理計画に基づき適切な点検・補修を継続するとともに、動物福祉の観点も踏まえた小規模改良を実施する。		
	年度計画	獣舎整備計画について、独立行政法人の発注による優位性を踏まえ、改めてコスト削減を検討するほか、必要に応じて計画内容の再検討も行う。		
	評価事例	Ⅲ	・ 獣舎整備計画のコスト削減の再確認、計画内容の再検討	
		Ⅳ・Ⅴ	・ コスト削減の実績	
D	行動	ホッキョクグマ舎を設計するにあたり、現在施工中で隣接しているペンギンアシカ舎の建築設備等を兼用できるかの検討を行った。 検討に関しては、直営時にはできなかったCM方式による委託業者も一緒に行ったことで、不要となる設備を削減することができた。 獣舎整備計画に関して、万博を見据えた計画内容にするため、施設整備会議で再検討を行うとともに、契約締結した「第一期リニューアル工事基本計画策定等発注支援業務委託」においても、コスト削減に向けた新たな発注形式等、獣舎整備に最適な発注方式を検討した。		
C	法人の自己評価	Ⅳ	評価理由	コスト削減（整備獣舎を集約化した工事発注による）を検討し、計画内容を再検討（具体的な動物移動や希少動物の導入、万博を見据えた整備）したため
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	現段階ではコスト削減実績までは至っていないため
	ヒアリング結果	隣接しているホッキョクグマ舎を設計するにあたり、現在施工中であるペンギンアシカ舎の建築設備等を兼用する検討をした結果、不要となる設備を削減することができ、獣舎整備計画についても、設計施工一体発注方式で工期削減の検討をするなど、地方独立行政法人の優位性は生かすことはできている。 しかしながら、現時点ではコスト削減の予定の段階に留まり、Ⅳ評価事例で示されているような削減実績までは至っていないため、計画を上回っているとまでは判断できない。		
A	次年度の年度計画	【20】 ペンギンアシカ舎、ホッキョクグマ舎等獣舎の計画に応じた設計や整備を着実に実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		32		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-3-(2) 動物福祉に配慮した獣舎整備の推進 施設整備計画に基づき、園内の獣舎整備を推進し、新たに建設する獣舎については、広さ、構造、設備等、世界に通用する飼育基準に適合した設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても、改善や工夫を施し、動物にとって適切な飼育環境を確保する。		
P	中期計画	第1-3-(2) 動物福祉に配慮した獣舎整備の推進 新たに建設する獣舎については、日本動物園水族館協会が示すガイドライン以上の広さ、構造、設備等を備えた設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても、工夫を施し、動物福祉に配慮した飼育環境を確保する。 また、既存獣舎についても、維持管理計画に基づき適切な点検・補修を継続するとともに、動物福祉の観点も踏まえた小規模改良を実施する。		
	年度計画	維持管理計画に基づく点検・補修を着実に実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・維持管理計画に基づく点検・補修の実施	
		Ⅳ・Ⅴ	・維持管理計画の見直し	
D	行動	飼育担当者による年2回の獣舎点検によって判明した修繕箇所を把握し、取りまとめを行ったうえ、適切に修繕を実施した。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	点検・補修を着実に実施している （評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	年2回飼育担当者が実施する獣舎点検において、修繕が必要な箇所を把握し取りまとめを行っている。また報告書を作成したうえ、施設整備担当者へ報告書を提出し、修繕を適切に実施する体制を構築することができ、計画どおり進んでいると判断できる。		
A	次年度の年度計画	【21】維持管理計画に基づく点検維持管理を着実に実施しつつ、第1期リニューアル計画を反映した維持管理計画を策定する。		

評価シート（個票）

通し番号		33	
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。	
		第2-3-(2) 動物福祉に配慮した獣舎整備の推進 施設整備計画に基づき、園内の獣舎整備を推進し、新たに建設する獣舎については、広さ、構造、設備等、世界に通用する飼育基準に適合した設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても、改善や工夫を施し、動物にとって適切な飼育環境を確保する。	
P	中期計画	第1-3-(2) 動物福祉に配慮した獣舎整備の推進 新たに建設する獣舎については、日本動物園水族館協会が示すガイドライン以上の広さ、構造、設備等を備えた設計・施工を行うとともに、既存の獣舎についても、工夫を施し、動物福祉に配慮した飼育環境を確保する。 また、既存獣舎についても、維持管理計画に基づき適切な点検・補修を継続するとともに、動物福祉の観点も踏まえた小規模改良を実施する。	
	年度計画	当面新築が予定されない既存獣舎について動物福祉の観点から実施可能な小規模改良個所を検討する。	
	評価事例	Ⅲ	・ 既存獣舎の小規模改良個所の検討実施
		Ⅳ・Ⅴ	・ 検討結果を踏まえた改良の実施
D	行動	飼育担当者による年2回の獣舎点検を行い、動物福祉の観点から改修が必要な個所を把握し、また小規模改修で対応できるか検討を行ったうえ、適切に改修を実施した。	
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由 修繕箇所を把握し、順次修繕を実施しているため
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由 法人評価のとおり
	ヒアリング結果	年2回飼育担当者が実施する獣舎点検において、不具合箇所を点検するだけでなく、各種動物が快適に過ごせる施設になっているかの把握にも努め、小規模改修で対応できるものについては、適切に修繕を実施しており、計画どおり進んでいると判断できる。	
A	次年度の年度計画	【22】 当面新築が予定されない既存獣舎について、動物福祉の観点から小規模改良計画を策定する。	

評価シート（個票）

通し番号		34		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-4-(1) 繁殖の推進 技術の向上に取り組み、自園における繁殖を推進するとともに、他園との動物の貸出し・借入れや余剰動物を預かる等の繁殖協力を推進する。また、生息域内保全についても、世界動物園水族館保全戦略を規範として、動物園としての支援活動を通じて貢献していく。		
P	中期計画	第1-4-(1) 繁殖の推進 種毎の飼育方針文書に基づき、動物福祉の観点も踏まえ、計画的に繁殖に取り組むとともに、現在も実施している他園の繁殖への協力としての貸出・借入等に引き続き取り組む。また、法人として可能な域内保全への支援活動を継続する。		
	年度計画	飼育方針文書における繁殖推進種である、クロサイ、カバ、ブチハイエナ、ジャガー、マレーグマについて、繁殖が行われるような環境を整えるなど、繁殖推進種ごとの具体的なチェックポイントを定め履行する。		
	評価事例	Ⅲ	・チェックポイントに基づいた履行（対象種の見直しも含む）	
		Ⅳ・Ⅴ	・繁殖実績	
D	行動	繁殖推進種のうち、特に繁殖が難しい種について、繁殖が行われるような環境を整えるにあたり、各種文献や会議等で得られた情報をもとに種ごとの具体的なチェックポイントを定め、各飼育で共有し履行している。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	チェックポイントに基づいた履行をしたため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	過去の文献や会議等により得られた知見を基にチェックポイントを定め、実施しており、計画通りに進捗していると判断できる。		
A	次年度の年度計画	【23】昨年度定めた繁殖推進種ごとの繁殖に向けたチェックポイントの項目を継続実施するとともに、必要に応じて対象種及びチェックポイントを見直す。		

評価シート（個票）

通し番号		35		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-4-(1) 繁殖の推進 技術の向上に取り組み、自園における繁殖を推進するとともに、他園との動物の貸出し・借入れや余剰動物を預かる等の繁殖協力を推進する。また、生息域内保全についても、世界動物園水族館保全戦略を規範として、動物園としての支援活動を通じて貢献していく。		
P	中期計画	第1-4-(1) 繁殖の推進 種毎の飼育方針文書に基づき、動物福祉の観点も踏まえ、計画的に繁殖に取り組むとともに、現在も実施している他園の繁殖への協力としての貸出・借入等に引き続き取り組む。また、法人として可能な域内保全への支援活動を継続する。		
	年度計画	域内保全への支援活動としてツル類での人工授精手技の確立のため、先進的な園での実習や所内研修に取り組む。		
	評価事例	Ⅲ	・人工授精手技の確立へに向けた実習や研修の実施	
		Ⅳ・Ⅴ	・人工授精手技の確立	
D	行動	人為的な努力で達成できる①は達成。 ① 雄の保定方法とマッサージの確立、精液の採取に成功した。 ② 以降、雌の発情兆候が得られていないため授精の段階に至っていない。 ⇒雌の発情は、人為的に発生させることが不可能 今後の予定 ・R3年度精液の採取までは成功したが、精液の量の不足や授精の未実施であるため今後検討していく。授精成功＝手技の確立 ・オグロヅル→ペアリング不全の兆候はみられないため馴致を継続する。 ・ソデグロヅル→ペアリング不全の兆候があるため、ペアの交換を検討する。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	雄の保定方法とマッサージの確立、精液の採取に成功したため
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	希少種であるツルの繁殖を目指すことによって保全に努めている。人工授精手技の方法は他園で確立されているが、当園で実施することはこれまでなかったため手技確立に向け、計画通りに進捗していることを確認した。		
A	次年度の年度計画	【24】昨年度に確立した人工授精手技で引き続きオオグロヅル、ソデグロヅルの繁殖を目指した取組を実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		36	
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。	
		第2-4-(1) 繁殖の推進 技術の向上に取り組み、自園における繁殖を推進するとともに、他園との動物の貸出し・借入れや余剰動物を預かる等の繁殖協力を推進する。また、生息域内保全についても、世界動物園水族館保全戦略を規範として、動物園としての支援活動を通じて貢献していく。	
P	中期計画	第1-4-(1) 繁殖の推進 種毎の飼育方針文書に基づき、動物福祉の観点も踏まえ、計画的に繁殖に取り組むとともに、現在も実施している他園の繁殖への協力としての貸出・借入等に引き続き取り組む。また、法人として可能な域内保全への支援活動を継続する。	
	年度計画	大阪府産ニホンイシガメの保全活動に引き続き取り組む。	
	評価事例	Ⅲ	・ニホンイシガメの保全活動継続実施
		Ⅳ・Ⅴ	・新たな活動の実施
D	行動	今年度は従前の担当班内でのミーティングだけでなく、新たに設置した保全リーダー会議でも検討を行い、本来の飼育スペースであるアイファア（爬虫類生態館）だけではなく、ツル舎やアイファアバックヤードでもイシガメを飼育し、繁殖を行っている。 《参考》 ニホンイシガメ個体数 29匹（オス6、メス4、不明19） ※令和2（2020）年12月末状況：飼育スペースがないため、令和3年度は繁殖をさせていない 更なる保全活動に向けては、繁殖エリアの確保が重要な条件となるが、現在の飼育エリア（アイファアの「日本の自然エリア」）を改修することを目標とし、実現に向けてクラウドファンディングによる資金調達を令和4年3月に開始した。（法人化後、初めての取り組み） このクラウドファンディングを活用して、ニホンイシガメの保全に繋げていく。	
C	法人の自己評価	Ⅳ	評価理由 更なる繁殖エリア確保に向け現飼育エリアを改善すべくファンドレイジングによる資金調達を開始したため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅳ	評価理由 法人評価のとおり
	ヒアリング結果	クラウドファンディングによる資金調達は、理解を得やすいコンセプトが欠かせないが、従前から行っている保全活動上の課題と紐づけ、実現することができた。 従前の活動に留まらず、新たな発想での取り組みを行っているため、計画を上回っていると評価できる。	
A	次年度の年度計画	【25】大阪府産ニホンイシガメの保全活動に引き続き取り組むとともに、新たな種の保全活動の啓発等についても取り組む。	

評価シート（個票）

37

計画・目標・成果

通し番号		37		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-4-(1) 繁殖の推進 技術の向上に取り組み、自園における繁殖を推進するとともに、他園との動物の貸出し・借入れや余剰動物を預かる等の繁殖協力を推進する。また、生息域内保全についても、世界動物園水族館保全戦略を規範として、動物園としての支援活動を通じて貢献していく。		
P	中期計画	第1-4-(1) 繁殖の推進 種毎の飼育方針文書に基づき、動物福祉の観点も踏まえ、計画的に繁殖に取り組むとともに、現在も実施している他園の繁殖への協力としての貸出・借入等に引き続き取り組む。また、法人として可能な域内保全への支援活動を継続する。		
	年度計画	域内保全活動のための組織体制や保全種の活動について検討する。		
	評価事例	Ⅲ	・保全活動の体制や保全種の拡大の検討実施	
		Ⅳ・Ⅴ	・保全種の拡大実績	
D	行動	これまで保全に特化した担当が不在であったが、世界に誇れる動物園を目指し、飼育各班に所属しない「保全リーダー」2名を新設し、体制面で保全の取り組みを強化した。 また以下の種については、令和3年度内に新たな取組を実施した。 ＜ニホンイシガメ＞ 繁殖スペースの拡大が必要であるため、クラウドファンディングで資金調達を実施 ＜キーウィ＞ 当園のみの飼育種であり危惧種でもあるキーウィを取り組み対象として位置付け、次年度からの本格的な活動に向けた準備を開始した。		
C	法人の自己評価	Ⅳ	評価理由	検討に加え、具体的な体制・方針も定まったため
	市の評価（案）	Ⅳ	評価理由	検討に加え、新たな活動を実施しているため。
	ヒアリング結果	・域内保全活動の組織体制を検討し、「保全リーダー」を新設している。 ・キーウィの域内保全に向けての取組み内容についても具体的な検討を行い、海外交渉を実施している。（小項目1より） ・域内保全活動内容を具体的に定めた上で、クラウドファンディングを実施している。（小項目36より） 以上の点より計画を上回っている。		
A	次年度の年度計画	【25】大阪府産ニホンイシガメの保全活動に引き続き取り組むとともに、新たな種の保全活動の啓発等についても取り組む。		

評価シート（個票）

通し番号		38	
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。 第2-4-(2) 調査研究の推進と知見の共有 動物園として調査研究活動に取り組むとともに、大学等の研究機関等と連携した共同研究を推進する。研究成果については、他園も含めた動物園の活動の改善はもとより、広く住民や社会に還元する。	
P	中期計画	第1-4-(2) 調査研究の推進と知見の共有 自園において取り組むべき調査研究対象を定め、着実に継続するとともに、大学等と連携した共同研究を推進するために、動物園の活用を積極的に周知する。 また、研究成果について、業界団体等の大会や研究会において学術発表することで、知見の共有を図る。	
	年度計画	これまでの調査研究内容を整理し、今後、園が5年間で取り組むべき調査研究の対象を決定する。	
	評価事例	Ⅲ	・調査研究の対象の決定
		Ⅳ・Ⅴ	・方針に沿った新たな調査研究の課題純増
D	行動	これまで、系統立てた整理ができていなかった調査研究について、現在取組中の案件も含め、学術的に系統立てて分類し、「①種の保存」、「②生物多様性」、「③動物福祉」の視点から、それに合致した領域を定め、今後、園が5年間で取り組むべき調査研究の方針を策定するとともに、下記のとおり重点領域についても定めた。 ①種の保存：動物繁殖生理学領域 基礎と臨床の境界領域に位置し、繁殖に関するホルモンなどの生理活性物質や遺伝子レベルでの形質を解明する研究を重点領域とし、希少動物の繁殖へ向けた同居のタイミングを適切に判断するなど、種の保存につながる研究に取り組みます。 例）マレーグマやブチハイエナ等の繁殖に関するホルモン繁殖生理 ②動物福祉：動物行動学領域 動物行動学の視点から、動物の様々な行動の意味や発言のしくみ、学習原理や基本的な行動観察などの研究を重点領域とし、それを飼育現場にフィードバックすることにより、高齢化する飼育動物の活動量の向上に生かすなど、動物福祉に配慮した飼育につながる研究に取り組みます。 例）ホッキョクグマ母子の出産直後から12か月齢までの行動発達研究 ③生物多様性：その他基礎研究領域 エピゲノム解析や形態学的情報などから生物の系統関係を解明する研究等の基礎研究を重点領域とし、進化の産物である生物多様性の解明に取り組みます。 例）骨盤と後肢筋肉群の形態的相関性とそれを用いた腰帯の筋肉の進化過程の推定	
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由 調査研究の方針を定めたため （評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由 法人評価のとおり
	ヒアリング結果	直営時に系統立てて整理ができていなかった調査研究の方針について、整理の上、とりまとめができており、計画どおり進んでいると判断できる。	
A	次年度の年度計画	【26】「地方独立行政法人天王寺動物園の調査研究の方針」（R3策定）の行動スケジュールに沿って実施する。	

評価シート（個票）

通し番号		39		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第2-4-(2) 調査研究の推進と知見の共有 動物園として調査研究活動に取り組むとともに、大学等の研究機関等と連携した共同研究を推進する。研究成果については、他園も含めた動物園の活動の改善はもとより、広く住民や社会に還元する。		
P	中期計画	第1-4-(2) 調査研究の推進と知見の共有 自園において取り組むべき調査研究対象を定め、着実に継続するとともに、大学等と連携した共同研究を推進するために、動物園の活用を積極的に周知する。 また、研究成果について、業界団体等の大会や研究会において学術発表することで、知見の共有を図る。		
	年度計画	周辺の大学、研究機関と恒常的な連携関係を構築すべく、協力を依頼し、連携協定締結を目指す。		
	評価事例	Ⅲ	・周辺の大学、研究機関への協力依頼	
		Ⅳ・Ⅴ	・新たな大学、研究機関等との連携協定の新規締結	
D	行動	すでに連携協定を結んでいる大学、研究機関との間で、独法化に伴う協定の再締結を行うとともに、現在共同研究などで協力関係にある各大学、研究機関などと、さらに包括的な連携ができるよう働きかけ、新たな連携協定の締結に取り組んだ。 その結果、実施中の共同研究案件(ホッキョクグマ、ふれあい)を踏まえた上で、教育普及活動及び動物園経営領域までウイングを広げた包括的な連携協定を学校法人帝京科学大学と締結することができた。		
C	法人の自己評価	Ⅳ	評価理由	新たな連携協定の締結ができたため （評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅳ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	直営時からも行っている共同研究などで協力関係にある各大学、研究機関などとさらに包括的な連携ができるよう働きかけている。その結果、実施中の共同研修から、さらに領域を広げた連携協定の新規の締結に結びついており、計画以上の成果があったと評価できる。		
A	次年度の年度計画	【27】従来の連携先に加えて、昨年度に連携協定を締結した大学・機関との取組を進める。		

評価シート（個票）

通し番号		40	
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。	
		第2-4-(2) 調査研究の推進と知見の共有 動物園として調査研究活動に取り組むとともに、大学等の研究機関等と連携した共同研究を推進する。研究成果については、他園も含めた動物園の活動の改善はもとより、広く住民や社会に還元する。	
P	中期計画	第1-4-(2) 調査研究の推進と知見の共有 自園において取り組むべき調査研究対象を定め、着実に継続するとともに、大学等と連携した共同研究を推進するために、動物園の活用を積極的に周知する。 また、研究成果について、業界団体等の大会や研究会において学術発表することで、知見の共有を図る。	
	年度計画	ホームページ等で大学等の研究機関との協定による研究実績や、取組み段階でも可能なものについては公表し、知見の共有を図る。	
	評価事例	Ⅲ Ⅳ・Ⅴ	・研究実績や取組み内容の公表 ・5件以上の研究実績、取組み内容の公表
D	行動	現在共同で進めている調査研究（共同研究）について、相手先に公表の可否について確認作業を進め、公表可能なものについて、ホームページ上に「天王寺動物園での共同研究の実績」として公表した。 今後資料や、学会発表などで内容についての情報でHP上にアップできるものは、随時掲載していくこととする。	
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由 共同研究について、公表可能なものをHP掲載済（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由 法人評価のとおり
	ヒアリング結果	HP上で大学等との研究機関との協定による研究実績などを可能なものについて公表しており、動物園が実施している共同研究について一般に広く周知を図っており、計画どおり進んでいると判断できる。	
A	次年度の年度計画	【28】 ホームページ等で大学等との研究機関との協定による研究実績や、取組み段階でも可能なものについては発表し、知見の共有を図る。	

評価シート（個票）

通し番号		41	
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。	
		第2-4-(2) 調査研究の推進と知見の共有 動物園として調査研究活動に取り組むとともに、大学等の研究機関等と連携した共同研究を推進する。研究成果については、他園も含めた動物園の活動の改善はもとより、広く住民や社会に還元する。	
P	中期計画	第1-4-(2) 調査研究の推進と知見の共有 自園において取り組むべき調査研究対象を定め、着実に継続するとともに、大学等と連携した共同研究を推進するために、動物園の活用を積極的に周知する。 また、研究成果については、業界団体等の大会や研究会において学術発表することで、知見の共有を図る。	
	年度計画	研究の成果については、研究会等において発表を行う。	
	評価事例	Ⅲ Ⅳ・Ⅴ	・研究会等での発表 ・査読のある雑誌に論文掲載
D	行動	○令和3年度実績 令和3年度 日本動物園水族館協会 「近畿ブロック動物園水族館臨床研究会」 開催日時：令和3年7月7日（水） 演題：メスのチュウゴクオオカミに見られた鼠経ヘルニアについて 令和3年度 近畿Vet研究会 開催日時：令和3年6月22日（火） 演題：耳介腫瘍を認めたカリフォルニアアシカの1例 動物の行動と管理学会2021年度大会 発表日：令和3年9月10日（金） 演題：飼育ホッキョクグマにおけるささ鳴きの発達変化 （優秀発表賞受賞） 日動水の各種技術研修会などに参加するだけでなく、発表演題をエントリーできるよう、題材探し、飼育および検査データの整理などに日ごろから取り組んでいる。	
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由 研究会等での発表を実施したため （評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由 法人評価のとおり
	ヒアリング結果	研究の成果を研究会等において発表するとともに、園内でも研究会の内容を報告をし、知見の共有を図っている。また研修会等で発表できるよう日ごろから情報収集に励んでおり、計画どおり進んでいると判断できる。	
A	次年度の年度計画	【29】研究の成果については、研究会等において発表を行う。	

評価シート（個票）

通し番号		42		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第3-1-(1) 機動的な組織体制の構築 理事長のトップマネジメントのもと、国内外の動物園の状況や動物飼育に関する理解に基づき、天王寺動物園の実情に即した機動的な組織体制を構築し、業務を執行する。 第3-1-(2) 適材適所の柔軟な人事配置 個々の職員の能力や専門性に合った適材適所の人員配置を行い、高度な専門性が求められる業務には、必要に応じて外部から専門人材の登用を行う。		
P	中期計画	第2-1 自律的な組織経営 法人として「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」という目指す姿を組織内外に周知徹底する。 また、中期目標の実現に向けた、組織の役職や人員について、その効果を定期的に検証し、必要に応じて見直しを図るとともに、専門性の高い業務について必要に応じて外部からの専門人材の登用を行う。		
	年度計画	研修やホームページ等で法人の目指す姿を情報発信・共有する。		
	評価事例	Ⅲ	・法人の目指す姿を情報共有・発信の実施	
		Ⅳ・Ⅴ	(例示なし)	
D	行動	【研修（内部向け発信）について】 研修内容に関して精査し、研修の準備を行った。 新規採用者にだけでなく職員全員を対象に法人の組織体制、定款、中期目標にかかる研修を実施した。 【ホームページ（外部向け発信）について】 中期目標など園の方針を明確にし、SDGs ポリシー、教育ポリシー、教育普及アクションプラン法人における取組を情報発信している。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	方針・計画等について、職員に研修するとともに、HPに掲載し、外部へも情報発信を行ったため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	法人として運営していくにあたり、新規採用者だけでなく職員全員に対し、法人の目指す姿の研修を実施している。また情報発信についても、中期目標など園の方針を明確にし、SDGs のポリシーや教育ポリシーなどの理念とともに、取組みについても適切に情報発信しているのが確認でき、計画どおり進んでいると判断できる。		
A	次年度の年度計画	【30】引き続き、研修やホームページ等で法人の目指す姿を情報発信・共有するとともに年報をホームページで公表するなど、情報発信の充実を図る。		

評価シート（個票）

通し番号		43	
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。	
		第3-1-(1) 機動的な組織体制の構築 理事長のトップマネジメントのもと、国内外の動物園の状況や動物飼育に関する理解に基づき、天王寺動物園の実情に即した機動的な組織体制を構築し、業務を執行する。 第3-1-(2) 適材適所の柔軟な人事配置 個々の職員の能力や専門性に応じた適材適所の人員配置を行い、高度な専門性が求められる業務には、必要に応じて外部から専門人材の登用を行う。	
P	中期計画	第2-1 自律的な組織経営 法人として「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」という目指す姿を組織内外に周知徹底する。 また、中期目標の実現に向けた、組織の役職や人員について、その効果を定期的に検証し、必要に応じて見直しを図るとともに、専門性の高い業務について必要に応じて外部からの専門人材の登用を行う。	
	年度計画	組織の役職や人員数の改編・補充については、定期的に棚卸をするなど点検する仕組みを構築する。	
	評価事例	Ⅲ	・組織改編等について、点検する仕組みを策定（構築）
		Ⅳ・Ⅴ	（例示なし）
D	行動	【退職者調査】 ● 6月・11月 年度末退職予定者等調査（早期退職希望者、定年退職者の再雇用の意向） 【派遣職員】 ● 7月～ 市からの派遣職員にかかる調整 【次年度新規採用】 ● 動物飼育・技術職員、事務職員（係長級）等 ・ 9月初旬～ 募集要綱公表 ・ 10月～12月 選考等実施 ・ 12月末 採用決定 【状況把握（本採用に向けて）】 ● R3新規採用者 ・ 9月 管理監督者による新規採用職員との面談（～22日） ・ 10月 管理監督者へのヒアリング※状況確認等 【自己申告】 ・ 11月 キャリアデザインシートの提出 ・ 12月 管理監督者による面談 以上のスケジュールに沿って、随時ヒアリング等を実施。	
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由 点検する仕組みを構築したため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由 法人評価のとおり
	ヒアリング結果	組織の人員数について各課と適切にヒアリングを実施するとともに、職員の面談等も確実に実施している。また、令和4年度の職員採用募集も遅滞なく行い、次年度以降も継続して募集ができる仕組みを構築しているのが確認でき、計画どおり進んでいると判断できる。	
A	次年度の年度計画	【31】法人内でのヒアリング等により組織の役職や人員数の改編・補充について点検し、必要に応じて対応する。	

評価シート（個票）

通し番号		44		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第3-1-(1) 機動的な組織体制の構築 理事長のトップマネジメントのもと、国内外の動物園の状況や動物飼育に関する理解に基づき、天王寺動物園の実情に即した機動的な組織体制を構築し、業務を執行する。 第3-1-(2) 適材適所の柔軟な人事配置 個々の職員の能力や専門性に応じた適材適所の人員配置を行い、高度な専門性が求められる業務には、必要に応じて外部から専門人材の登用を行う。		
P	中期計画	第2-1 自律的な組織経営 法人として「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」という目指す姿を組織内外に周知徹底する。 また、中期目標の実現に向けた、組織の役職や人員について、その効果を定期的に検証し、必要に応じて見直しを図るとともに、専門性の高い業務について必要に応じて外部からの専門人材の登用を行う。		
	年度計画	R3年度実施の獣舎整備設計はじめ業務実施にあたっては、外部の専門人材登用が必要かどうか検討する。		
	評価事例	Ⅲ	・ 獣舎整備計画はじめ業務実施にあたって専門人材登用を検討	
		Ⅳ・Ⅴ	・ 専門人材の登用実績	
D	行動	令和3年度末より実施したクラウドファンディングで、アイファ어의改修を行う予定であるが、改修計画を策定するにあたり、水槽などのレイアウトなど水族館での展示レイアウトに関する知識等が必要となったが、当該分野に関する見識を有する専門家を選定の上、アドバイザー契約を行うことができた。		
C	法人の自己評価	Ⅳ	評価理由	専門人材の登用実績が上がったため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅳ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	クラウドファンディングの実施にあたり、専門的な見識が必要な分野を見極めた上で、適切な人材を選定し、アドバイザー契約を交わすことができ、クラウドファンディングの円滑な実施に寄与することができたため、計画以上の成果を挙げていると評価できる。		
A	次年度の年度計画	【32】 各種業務の実施にあたり、外部の専門人材登用が必要かどうかを検討する。		

評価シート（個票）

45

通し番号		45		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第3-2-(1) 人材の確保・育成 持続的かつ国際的にも通用する動物園経営のため、組織として蓄積した知識と技術を着実に継承するとともに、中長期的な視点から計画的な人材の確保・育成に努める。人材の確保・育成にあたっては、支援者（来園者、寄付者等を含む。）、園内スタッフ等の関係者、設立団体である本市、日本動物園水族館協会 及び 世界動物園水族館協会 等 関連する多様なステークホルダーと法人との良好なコミュニケーションに寄与できる人材を基準又は目標とする。 また、職員の能力向上に必要な技術を常に調査・把握のうえで、飼育管理をはじめとする天王寺動物園の機能向上に資する技術の習得機会（国内外の研究会における情報交換、ホスピタリティ向上やファンドレイジング（戦略的に外部資金を広く集めること。以下同じ。））に関する研修参加等）を積極的に設ける。		
P	中期計画	第2-2-(1) 人材の確保・育成 人材の確保については、現在の職員の年齢構成・経験も考慮し、中期目標の達成に資する人材の確保に努める。また、人材の育成については、中期目標の達成に向け、求められる考え方、技術・能力をOJTや研修等で着実に習得させるとともに、数多く在籍するベテラン職員層のノウハウを標準化した各種マニュアル類で共有することにより園全体の能力を向上させる。		
	年度計画	人材確保に関する方針及び計画を定める。（人件費計画含む。）		
	評価事例	Ⅲ	・計画策定（第1四半期）	
		Ⅳ・Ⅴ	（例示なし）	
D	行動	飼育・事務技術部門配置計画を踏まえた人材育成方針を策定するとともに、人材育成方針に基づいたR4職員募集を実施した。また職員のキャリア形成や担当業務に関するキャリアデザインシートを作成した。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	計画策定を行ったため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	法人として基本となる人材育成方針を作成し、その育成方針に基づき令和4年度の職員募集を実施している。また職員のキャリア形成や担当業務に関するキャリアデザインシートも作成しているのが確認でき、計画どおり進んでいると判断できる。		
A	次年度の年度計画	【33】人材育成方針及び計画に基づき各種人事業務を実施するとともに、必要に応じて方針及び計画を修正する。		

評価シート（個票）

通し番号		46		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第3-2-(1) 人材の確保・育成 持続的かつ国際的にも通用する動物園経営のため、組織として蓄積した知識と技術を着実に継承するとともに、中長期的な視点から計画的な人材の確保・育成に努める。人材の確保・育成にあたっては、支援者（来園者、寄付者等を含む。）、園内スタッフ等の関係者、設立団体である本市、日本動物園水族館協会及び世界動物園水族館協会等関連する多様なステークホルダーと法人との良好なコミュニケーションに寄与できる人材を基準又は目標とする。 また、職員の能力向上に必要な技術を常に調査・把握のうえで、飼育管理をはじめとする天王寺動物園の機能向上に資する技術の習得機会（国内外の研究会における情報交換、ホスピタリティ向上やファンドレイジング（戦略的に外部資金を広く集めること。以下同じ。））に関する研修参加等）を積極的に設ける。		
P	中期計画	第2-2-(1) 人材の確保・育成 人材の確保については、現在の職員の年齢構成・経験も考慮し、中期目標の達成に資する人材の確保に努める。また、人材の育成については、中期目標の達成に向け、求められる考え方、技術・能力をOJTや研修等で着実に習得させるとともに、数多く在籍するベテラン職員層のノウハウを標準化した各種マニュアル類で共有することにより園全体の能力を向上させる。		
	年度計画	全職種対象にオリエンテーションや導入研修を上半期に行う。		
	評価事例	Ⅲ	・全職種対象にオリエンテーションや導入研修を実施	
		Ⅳ・Ⅴ	・研修についての職員アンケート等での高評価	
D	行動	研修計画に基づき、以下を実施 ・新規採用者にオリエンテーションや新規採用者研修実施 研修内容（動物福祉倫理規定・感染症対策・法人組織・規程等・文書事務） ・新規採用者を除く係長級以下職員に法人組織規程研修実施 ・係長級以下職員にコンプライアンス研修実施 ・契約事務研修実施		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	オリエンテーション及び研修を実施済みのため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	新規採用者に対して適切にオリエンテーションや研修を実施しているとともに、現職員に対しても法人組織規程研修やコンプライアンス研修を確実に実施していることが確認でき、計画どおり進んでいると判断できる。		
A	次年度の年度計画	【34】人材育成方針及び計画に基づき研修を実施するとともにアンケート、効果、業界で求められるスキルを踏まえ研修計画を随時見直す。		

評価シート（個票）

通し番号		47		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第3-2-(1)人材の確保・育成 持続的かつ国際的にも通用する動物園経営のため、組織として蓄積した知識と技術を着実に継承するとともに、中長期的な視点から計画的な人材の確保・育成に努める。人材の確保・育成にあたっては、支援者（来園者、寄付者等を含む。）、園内スタッフ等の関係者、設立団体である本市、日本動物園水族館協会及び世界動物園水族館協会等関連する多様なステークホルダーと法人との良好なコミュニケーションに寄与できる人材を基準又は目標とする。 また、職員の能力向上に必要な技術を常に調査・把握のうえで、飼育管理をはじめとする天王寺動物園の機能向上に資する技術の習得機会（国内外の研究会における情報交換、ホスピタリティ向上やファンレイジング（戦略的に外部資金を広く集めること。以下同じ。）に関する研修参加等）を積極的に設ける。		
P	中期計画	第2-2-(1)人材の確保・育成 人材の確保については、現在の職員の年齢構成・経験も考慮し、中期目標の達成に資する人材の確保に努める。また、人材の育成については、中期目標の達成に向け、求められる考え方、技術・能力をOJTや研修等を着実に習得させるとともに、数多く在籍するベテラン職員層のノウハウを標準化した各種マニュアル類で共有することにより園全体の能力を向上させる。		
	年度計画	飼育業務に従事する職員に現在の年間研修計画に基づく研修を行う。また、テーマによってはその他職員も参加する。		
	評価事例	Ⅲ	・年間研修計画に基づいた研修実施	
		Ⅳ・Ⅴ	・海外研修の受講実績	
D	行動	年間研修計画に基づく研修を実施し、必要があれば研修内容のアップデートを行った。 また今回当初計画に加え、応用的な以下の研修も実施 ●職員研修(飼育展示課)「行動分析学」及び「栄養学講座」×3回 ●行動分析学についてのケーススタディによる勉強会（1回/月程度）		
C	法人の自己評価	Ⅳ	評価理由	当初予定の基礎的な内容に加え、行動分析学や栄養学の研修を数多く実施できたため
	市の評価（案）	Ⅳ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	環境エンリッチメントやハズバンダリートレーニングを園全体で取り組むべく、当初の計画にはなかった行動分析学及び栄養学講座の教育研修を取り入れ飼育職員全員が受講していることが確認できるとともに、今後の職員の能力向上の研修を継続して行う仕組みを構築している。 またこの研修を行った結果、別途年度目標で策定した「環境エンリッチメントおよびハズバンダリートレーニング取組み方針」（項目番号：27）記載の対象種へ取組みが実施できていることから、計画を上回っていると判断できる。		
A	次年度の年度計画	【34】人材育成方針及び計画に基づき研修を実施するとともにアンケート、効果、業界で求められるスキルを踏まえ研修計画を随時見直す。		

評価シート（個票）

通し番号		48		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第3-2-(1) 人材の確保・育成 持続的かつ国際的にも通用する動物園経営のため、組織として蓄積した知識と技術を着実に継承するとともに、中長期的な視点から計画的な人材の確保・育成に努める。人材の確保・育成にあたっては、支援者（来園者、寄付者等を含む。）、園内スタッフ等の関係者、設立団体である本市、日本動物園水族館協会及び世界動物園水族館協会等関連する多様なステークホルダーと法人との良好なコミュニケーションに寄与できる人材を基準又は目標とする。 また、職員の能力向上に必要な技術を常に調査・把握のうえで、飼育管理をはじめとする天王寺動物園の機能向上に資する技術の習得機会（国内外の研究会における情報交換、ホスピタリティ向上やファンドレイジング（戦略的に外部資金を広く集めること。以下同じ。））に関する研修参加等）を積極的に設ける。		
P	中期計画	第2-2-(1) 人材の確保・育成 人材の確保については、現在の職員の年齢構成・経験も考慮し、中期目標の達成に資する人材の確保に努める。また、人材の育成については、中期目標の達成に向け、求められる考え方、技術・能力をOJTや研修等で着実に習得させるとともに、数多く在籍するベテラン職員層のノウハウを標準化した各種マニュアル類で共有することにより園全体の能力を向上させる。		
	年度計画	中期目標に掲げる重点項目（ホスピタリティ・ファンドレイジング）に関する研修計画を立案する。		
	評価事例	Ⅲ	・重点項目（ホスピタリティ・ファンドレイジング）の研修計画	
		Ⅳ・Ⅴ	・研修の実施	
D	行動	ホスピタリティ研修については、他園の研修事例なども調査した上で、研修計画を立案し、3月に外部講師による研修を実施することができた。 ファンドレイジング研修は、ファンドレイジングPTを6月に立ち上げ、研修を必要とする内容を精査・決定した上で、研修計画を立案し、3月に研修を実施することができた。		
C	法人の自己評価	Ⅳ	評価理由	年度内に研修の実施までできたため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅳ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	研修計画を立案し計画を定めたうえ年度末に研修実施まで行うことができていることに加え、ホスピタリティについては、来園者アンケートで効果が確認できしており（項目12参照）、またファンドレイジングについては、クラウドファンディングの実施につなげることができた（項目36参照）ため、計画を上回って実施しているとしてⅣ評価とする。		
A	次年度の年度計画	【34】人材育成方針及び計画に基づき研修を実施するとともにアンケート、効果、業界で求められるスキルを踏まえ研修計画を随時見直す。		

評価シート（個票）

通し番号		49		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第3-2-(1) 人材の確保・育成 持続的かつ国際的にも通用する動物園経営のため、組織として蓄積した知識と技術を着実に継承するとともに、中長期的な視点から計画的な人材の確保・育成に努める。人材の確保・育成にあたっては、支援者（来園者、寄付者等を含む。）、園内スタッフ等の関係者、設立団体である本市、日本動物園水族館協会 及び 世界動物園水族館協会 等 関連する多様なステークホルダーと法人との良好なコミュニケーションに寄与できる人材を基準又は目標とする。 また、職員的能力向上に必要な技術を常に調査・把握のうえで、飼育管理をはじめとする天王寺動物園の機能向上に資する技術の習得機会（国内外の研究会における情報交換、ホスピタリティ向上やファンドレイジング（戦略的に外部資金を広く集めること。以下同じ。）に関する研修参加等）を積極的に設ける。		
P	中期計画	第2-2-(1) 人材の確保・育成 人材の確保については、現在の職員の年齢構成・経験も考慮し、中期目標の達成に資する人材の確保に努める。また、人材の育成については、中期目標の達成に向け、求められる考え方、技術・能力をOJTや研修等で着実に習得させるとともに、数多く在籍するベテラン職員層のノウハウを標準化した各種マニュアル類で共有することにより園全体の能力を向上させる。		
	年度計画	園として対象とする資格を定め、取得の支援を行う仕組みを構築する。		
	評価事例	Ⅲ	・資格取得支援の仕組みの構築	
		Ⅳ・Ⅴ	・資格取得者が複数名	
D	行動	職員の人材育成を目的とした資格取得支援制度の構築にあたり、業務遂行上有益となる資格について、ヒアリングを実施した。 結果、「飼育技師」、「学芸員」、「准認定ファンドレイザー」、「電気主任技術者」、「衛生管理者」の計5資格について園運営に役立つと判断したことから、同資格の取得を対象とした資格取得支援制度を構築し、規程及び要綱の整備を行った。 R 4. 2月より制度を運用開始した結果、計4名の職員が当制度を活用のうえ飼育技師の資格を取得した。		
C	法人の自己評価	Ⅳ	評価理由	仕組み構築の上、資格取得者が複数名出たため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅳ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	動物園運営に必要な資格等を検討するとともに、資格取得支援にかかる制度を策定している。併せて規程や要綱も整備し、資格取得支援の仕組みを構築している。 結果、制度を活用し、初年度で4名が飼育技師の資格を取得したため、計画を上回って実施していると言える。		
A	次年度の年度計画	【35】資格取得支援の仕組みを浸透させ、必要に応じて支援対象資格を追加する。		

評価シート（個票）

通し番号		50		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第3-2-(2) 職員の能力向上と意欲喚起 インセンティブが適正に働く人事評価制度を確立することにより、勤務意欲を高め、職員個人の能力及び組織力の向上を図る。		
P	中期計画	第2-2-(2) 職員の能力向上と意欲喚起 法人設立当初に策定した評価制度の定期的な効果検証を行い必要に応じて見直しが行なわれる仕組みを構築する。		
	年度計画	初年度の運営を行いながら、直営時の制度課題を踏まえ法人の目標に沿った人事評価制度を策定し、評価を実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・法人独自の制度に基づく、評価の実施	
		Ⅳ・Ⅴ	（例示なし）	
D	行動	設立団体の評価制度を参考にしながらも、動物園という特殊な職場に合致するよう、重要視する評価項目や点数配分などを精査し、法人独自の制度を構築した。 関連規程も改正し、下記のスケジュールどおり実施した。 <人事評価実施スケジュール> ・1月初旬～ 評価者・被評価者説明 1月上旬～ 自己評価 1月中～ 一次評価・面談 1月下旬～ 2次評価 2月初旬～ 調整 2月上～中旬 開示、苦情申し立て 3月2日 理事会にて報告 4月1日 昇給反映		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	法人独自の評価を実施済のため （評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	法人独自の着眼点を持って人事評価制度を構築した。また関係規程の改正も行い、スケジュールに沿って全職員の人事評価を終了していることも確認でき、計画どおり進んでいると判断できる。		
A	次年度の年度計画	【36】引き続き人事評価制度を運用するとともに、制度内容を検証のうえ、必要に応じて制度を見直す。		

評価シート（個票）

通し番号		51		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第3-3-(1) PDCAサイクルの確立 評価委員会の見解に基づき本市が評価基準を作成し、その評価基準を動物園経営のPDCAサイクルに組み込み効果的・効率的な業務執行に努める。		
P	中期計画	第2-3-(1) PDCAサイクルの確立 法人設立初年度は、評価の対象となる年度計画の各項目毎に適切に進捗管理が実施できるような仕組みを構築し、日常業務の履行が評価基準の達成に自然と結びつくよう取り組みを行う。さらに、達成状況を踏まえ、日常業務や次年度計画に反映するとともに、必要に応じて中期計画の変更を行う。		
	年度計画	年度計画の各項目に対応した、進捗管理シートを作成する（5月末）		
	評価事例	Ⅲ	・進捗管理シートの作成	
		Ⅳ・Ⅴ	（例示なし）	
D	行動	4月に「年度計画進捗管理シート」を作成し、進捗管理の進め方について、各課へ説明を行い、以降、シートを活用し進捗管理を定期的に行った。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	シート作成の上、定期的に進捗確認を行ったため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	年度計画進捗管理シートを使用し、各課適切に進捗を管理しているのが確認でき計画どおり進んでいると判断できる。		
A	次年度の年度計画	【37】年度計画の進捗状況を四半期ごとに確認し、市ともその内容を共有する。その際、達成状況や令和3年度の市評価等を踏まえ、日常業務や次年度計画に反映するとともに、必要に応じて中期計画の変更を行う。		

評価シート（個票）

通し番号		52		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第3-3-(1) PDCAサイクルの確立 評価委員会の見解に基づき本市が評価基準を作成し、その評価基準を動物園経営のPDCAサイクルに組み込み効果的・効率的な業務執行に努める。		
P	中期計画	第2-3-(1) PDCAサイクルの確立 法人設立初年度は、評価の対象となる年度計画の各項目毎に適切に進捗管理が実施できるような仕組みを構築し、日常業務の履行が評価基準の達成に自然と結びつくよう取り組みを行う。さらに、達成状況を踏まえ、日常業務や次年度計画に反映するとともに、必要に応じて中期計画の変更を行う。		
	年度計画	年度計画の進捗状況を毎月確認し、市ともその内容を共有する。その際、達成状況踏まえ、日常業務や次年度計画に反映するとともに、必要に応じて中期計画の変更を行う。		
	評価事例	Ⅲ	・進捗状況を毎月確認し、計画達成に向け進捗管理シートに修正を加えるとともに、必要に応じ日常業務や次年度計画等への反映	
		Ⅳ・Ⅴ	（例示なし）	
D	行動	年度計画の進捗管理シートを用い、毎月の計画進捗会議で進捗管理や懸案事項を情報共有できる仕組みづくりを構築した。また、年間スケジュールを作成しPDCAサイクルを定着させ、9月に第1四半期の実績を集約し理事会へ報告を行った。 下半期は上半期を振り返り、必要に応じて年度計画の時点修正を行うとともに、今年度の見込みを踏まえてR4年度の年度計画を作成し、中期計画の変更が必要となる項目について、市と情報共有を行った。結果、年度計画の時点修正については修正なく、今年度の状況を鑑み、R4年度の年度計画については、重複する項目をまとめるなどの変更を行った。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	進捗確認や次年度年度計画への反映、中期目標の変更を適切に実施したため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	定期的に開催している計画進捗会議において、園内の懸案事項や業務の進捗など情報を共有するとともに検討を行っており、その結果を日常業務もしくは年度計画に反映できる仕組みを構築しているのが確認でき、計画どおり進んでいると判断できる。		
A	次年度の年度計画	【37】年度計画の進捗状況を四半期ごとに確認し、市ともその内容を共有する。その際、達成状況や令和3年度の市評価等を踏まえ、日常業務や次年度計画に反映するとともに、必要に応じて中期計画の変更を行う。		

評価シート（個票）

通し番号		53		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第3-3-(2) ICTの導入及び活用 ICTを導入・活用することで、業務の標準化と事務処理の効率化を図る。活用することで、業務の標準化と事務処理の効率化を図る。		
P	中期計画	第2-3-(2) ICTの導入及び活用 事務効率化の観点から人事財務部門へのICTの導入はもちろん、動物福祉向上の観点から飼育診療部門において、飼育、各種トレーニング、診療の履歴などの情報を一体的に管理できるよう、ICTの導入と日常的な活用に取り組む。		
	年度計画	人事財務分野において導入した各種機器の安定運営を図るとともに、複数の職員が日常的に初歩的な操作を行えるような状態を目指す。		
	評価事例	Ⅲ	・各種機器の安定運営と、複数職員が日常的・初歩的な操作が行えている状態（財会・人給）	
		Ⅳ・Ⅴ	・飼育・トレーニング分野への展開実績	
D	行動	勤怠管理及び給与システム、財務会計システムにおいて、R3.4月の導入当初よりシステム運用課題についてシステム保守業者と共有のうえ、遅滞なく課題解決に向けた協議を行った結果、システム停止等の大きなトラブルもなく、年間を通して安定的にシステムを稼働することができた。 また、担当職員向けの入力マニュアルや手引き等を早期に作成し共有した結果、担当内の複数職員がシステム操作を行える状態となっている。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	安定的に運用ができており、日常的な操作にも問題がないため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	勤怠システム等においては、法人設立当初から大きなトラブルなく稼働できている。また遅滞なくマニュアル等も作成するなど、システムを利用する職員への負担を最小限にしているのが確認でき、計画どおり進んでいると判断できる。		
A	次年度の年度計画	【38】引き続き、人事財務分野において導入した各種機器の安定運用を図るとともに、担当者変更等に伴う引継ぎを着実に実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		54		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第3-3-(2) ICTの導入及び活用 ICTを導入・活用することで、業務の標準化と事務処理の効率化を図る。活用することで、業務の標準化と事務処理の効率化を図る。		
P	中期計画	第2-3-(2) ICTの導入及び活用 事務効率化の観点から人事財務部門へのICTの導入はもちろん、動物福祉向上の観点から飼育診療部門において、飼育、各種トレーニング、診療の履歴などの情報を一体的に管理できるよう、ICTの導入と日常的な活用に取り組む。		
	年度計画	飼育部門については、初年度、診療分野に導入する動物カルテシステムを診療履歴のみならず、日常飼育やトレーニング分野へ展開する方針を策定する。		
	評価事例	Ⅲ	・動物カルテシステムを次年度の飼育・トレーニング分野へ展開する方針の策定	
		Ⅳ・Ⅴ	・方針に基づいた飼育・トレーニング分野の記録入力が実装・稼働	
D	行動	電子カルテの実用化に向け、天王寺動物園独自のシステムを構築し、既存カルテの取り込みや周辺検査機器との連携確認など、問題なく試験運用を終えることができた。 さらに今後の日常の飼育記録やトレーニング等の記録との連携を見据えた「電子カルテシステムの日常飼育などへの展開方針」を策定した。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	方針策定済みのため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	今まで紙カルテであった動物診療に、ICTを導入し電子カルテシステムを構築したことで、各自のパソコンから入力または閲覧することができるなど、診療業務の効率化を図ることができている。また日常の飼育記録やトレーニング記録との連携を見据えた方針も策定しており、計画どおり進んでいると判断できる。		
A	次年度の年度計画	【39】動物カルテシステムの日常飼育・トレーニング分野への試行実施（R3）を踏まえ、本格実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		55		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第4-1 収入の確保 来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により天王寺動物園の魅力を向上させつつ、新型コロナウイルス感染症をはじめとする新興感染症対策による安全と集客のバランスも考慮した動物園経営で、着実に入園料収入を確保することに加え、戦略的な渉外営業（ファンドレイジングを含む。）や魅力的なグッズ開発等の入園料外収入の確保に努める。		
P	中期計画	第3-1 収入の確保 事業の実施に必要な資金を安定的に確保するため、来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により、安全と集客のバランスも考慮しながら着実な入園料収入の確保に努めるとともに、ファンドレイジングを始めとした渉外営業等による入園料外収入の確保に努める。		
	年度計画	入園料収入416百万円・入園者数143万人を目標とする。（令和3年度予算）		
	評価事例	Ⅲ	・入園料、入園者数に関してコロナを踏まえた適正数値を分析の上、決定	
		Ⅳ・Ⅴ	・入園料、入園者数に関してコロナを踏まえた適正数値を分析決定のうえ、顕著な増加と認められた場合。	
D	行動	毎月の理事会にて、入園料収入・入園者数を随時確認し、目標に対しての進捗状況を報告しながら、必要に応じて、新型コロナウイルス感染症の拡大防止にも配慮しながら、チケット販売枚数の増加検討を行った。 10月30日より新型コロナウイルス感染症の拡大状況を勘案しチケット販売枚数を増変更した。 令和3年度の入園者数は <u>839,003人</u> 、入園料収入は <u>238,399千円</u> であり、コロナを踏まえた適正数値（※）より上回る。 ※新型コロナウイルス感染症拡大の中で、入園制限等を行いながら営業していた令和2年度実績を適正数値とした。 令和2年度の1日当たりの平均入園者数（平日1,651人、休日4,861人）に令和3年度の開園日数（平日167日、休日95日）を乗じて入園者数適正数値（737,512人）を求めた。 令和2年度の入園者1人あたりの平均単価（288.2円）に入園者数適正数値を乗じて入園料収入適正数値（212,565千円）を求めた。（詳細は【別紙1】のとおり）		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	コロナによる影響を分析し定めた適正数値（737,512人、212,565千円）を上回ったため
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	コロナによる影響を分析し定めた適正数値（826,013人、238,057千円）を上回ったため
	ヒアリング結果	年度計画に示された入園料収入及び入園者数は、令和3年度予算算定時（令和2年度の秋）のものであり、コロナによる影響が読めない状況で策定されたものであるため、再度、目標となる適正な数値を設定する必要がある。 【別紙2】のとおり、求めた適正数値（入園者数：826,013人、入園料収入：238,057千円）を上回っており、Ⅲ評価と考える。		
A	次年度の年度計画	【40】入園料収入3.2億円・入園者数120万人を目標とする。（令和4年度予算）		

コロナを踏まえた適正数値について【法人の考え】

- ・新型コロナウイルス感染症拡大の中で、入園制限等を行いながら営業していた令和2年度実績を適正数値とする。
- ・令和2年度と3年度では開園日数が異なるため、令和2年度の1日当たりの平均入園者数に、令和3年度の開園日数を乗じて適正数値を求める。（＝737,512人）
- ・令和3年度入園者数は**839,003人**のため、適正人数を上回っている。
- ・令和3年度入園料入も同様に、**238,399千円**であり、適正収入を上回っている。

入園者数	【基準】 令和2年度（実績）			【適正数値】 令和3年度	
	年間	開園日	1日平均	開園日	年間
平日	284,044	172	1,651	167	275,717
土日祝	486,094	100	4,861	95	461,795
	770,138	272	—	262	737,512

(人)

入園料 収入	【基準】 令和2年度（実績）			【適正数値】 令和3年度	
	入園者数	収入	平均単価	入園者数	収入
平日					
土日祝					
年間	770,138	221,968	288.2	737,512	212,565

(人)

(千円)

(円)

(人)

(千円)

(参考) 年度比較

・緊急事態宣言発令期間

令和2年度 4月7日～5月21日（45日）、1月14日～2月28日（46日） 計91日

令和3年度 4月25日～6月20日（57日）、7月12日～9月30日（81日） 計138日

・休園期間

令和2年度 4月8日～5月25日（48日）

令和3年度 4月24日～6月21日（59日）、1月25日～1月31日（7日） 計66日

コロナを踏まえた適正数値について【市の考え】

- 年度計画に示された入園料収入及び入園者数は、令和3年度予算算定時（令和2年度の秋）のものであり、コロナによる影響が読めない状況で策定されたものであるため、再度、目標となる適正な数値を設定する必要がある。
- コロナ禍での適正数値を算出する上で、同じ状況での実績が必要となるが、コロナ禍での実績は徐々に影響が出始めた令和2年2月頃以降分しかないため、令和2年度の入園者数を使用している法人の考え方は、ベースとしては妥当であると考ええる。
- しかしながら、令和2年度と令和3年度ではコロナに対する政府からの要請内容や社会的な捉え方等取り巻く状況が異なるため、単純に令和2年度の数値を令和3年度に置き換えるのではなく、令和2年度と令和3年度の状況の違いを考察した上で、適正数値を求める必要がある。
- 様々な考え方ができるが、一つの指標として観光庁が毎月行っている旅行・観光動向調査の結果で比較を行う。

◎日本人国内延べ旅行者数（日帰り旅行）

※この調査上の「旅行」とは：日常生活圏を離れたところへの旅行

（概ね移動距離80km以上または移動時間と滞在時間を合わせて8時間以上）

令和2年度	令和3年度
11,625万人	12,997万人

- これによると、令和2年度と令和3年度を比較すると、約1.12倍の伸びが見られる。
- 法人が適正とする737,512人にこれをかけると、826,013人となる。
- 日本全国の日帰り旅行の動向は必ずしも動物園の集客の動向とは一致しないが、当該調査の行き先の具体例に「動物園」が含まれていることから、一定の合理性があると考ええる。
- よって令和2年度と令和3年度の違いを考慮した適正な入園者数については、**826,013人**で、適正な入園料収入は平均単価（@288.2円）をかけた**238,057千円**と考える。

評価シート（個票）

通し番号		56																				
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。																				
		第4-1 収入の確保 来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により天王寺動物園の魅力を向上させつつ、新型コロナウイルス感染症をはじめとする新興感染症対策による安全と集客のバランスも考慮した動物園経営で、着実に入園料収入を確保することに加え、戦略的な渉外営業（ファンドレイジングを含む。）や魅力的なグッズ開発等の入園料外収入の確保に努める。																				
P	中期計画	第3-1 収入の確保 事業の実施に必要な資金を安定的に確保するため、来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により、安全と集客のバランスも考慮しながら着実な入園料収入の確保に努めるとともに、ファンドレイジングを始めとした渉外営業等による入園料外収入の確保に努める。																				
	年度計画	（仮称）ファンクラブを組成し案内する。（第1四半期）																				
	評価事例	Ⅲ	・（仮称）ファンクラブの組成と案内の実施																			
		Ⅳ・Ⅴ	・方針に基づいた飼育・トレーニング分野の記録入力の実装・稼働																			
D	行動	会費や特典などの面で、既存制度（応援団）を見直し、ファンクラブとして再編成。10月より会員募集を開始した。																				
		<応援団（9月まで）・ファンクラブ（10月以降）収入の合計実績> ※目標金額は過去実績から算定している。（渉外営業戦略に明記あり）																				
			<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標金額</th> <th>合計実績</th> <th>うちファンクラブ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プチ</td> <td>2,000,000</td> <td>2,297,500</td> <td>1,242,500</td> </tr> <tr> <td>個人・プレミアム</td> <td rowspan="2">3,000,000</td> <td>3,250,800</td> <td>2,303,000</td> </tr> <tr> <td>スマート</td> <td>176,000</td> <td>176,000</td> </tr> <tr> <td>企業</td> <td>3,000,000</td> <td>3,200,000</td> <td>1,700,000</td> </tr> </tbody> </table>		目標金額	合計実績	うちファンクラブ	プチ	2,000,000	2,297,500	1,242,500	個人・プレミアム	3,000,000	3,250,800	2,303,000	スマート	176,000	176,000	企業	3,000,000	3,200,000	1,700,000
	目標金額	合計実績	うちファンクラブ																			
プチ	2,000,000	2,297,500	1,242,500																			
個人・プレミアム	3,000,000	3,250,800	2,303,000																			
スマート		176,000	176,000																			
企業	3,000,000	3,200,000	1,700,000																			
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	ファンクラブの組成と案内を実施したため																		
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり																		
	ヒアリング結果	ファンクラブの組成と案内を実施し、項目58で策定した渉外営業戦略に明記されている、過去の応援団での収入実績から算定された目標どおりの成果が得られており、計画どおり進捗していると言える。																				
A	次年度の年度計画	【41】継続してファンクラブ募集に取り組み、会費収入額を前年度比1.2倍を目標とする。																				

評価シート（個票）

通し番号		57		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第4-1 収入の確保 来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により天王寺動物園の魅力を向上させつつ、新型コロナウイルス感染症をはじめとする新興感染症対策による安全と集客のバランスも考慮した動物園経営で、着実に入園料収入を確保することに加え、戦略的な渉外営業（ファンドレイジングを含む。）や魅力的なグッズ開発等の入園料外収入の確保に努める。		
P	中期計画	第3-1 収入の確保 事業の実施に必要な資金を安定的に確保するため、来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により、安全と集客のバランスも考慮しながら着実な入園料収入の確保に努めるとともに、ファンドレイジングを始めとした渉外営業等による入園料外収入の確保に努める。		
	年度計画	クラウドファンディングを開始する。（第1四半期）		
	評価事例	Ⅲ	・クラウドファンディングの実施	
		Ⅳ・Ⅴ	・寄附の獲得実績（件数・額等から総合的に評価）	
D	行動	以下のスケジュールで検討を行い、3月28日に募集を開始した。 4月～5月上旬：プラットフォームの選定および契約 5月：プラットフォームの選定 6月：ファンドレイジングPT立ち上げ ～11月：使途の決定（アイファ어의一部改修） 具体的な改修箇所および改修内容の決定 12月～1月：改修にかかる設計 2月 ：改修にかかる見積取得 3月28日 ：募集開始（5月31日まで） ※改修工事はR4年度		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	クラウドファンディングを実施したため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	開始時期が遅れているが、第1四半期中にプラットフォームの選定は完了している。より多くの方に賛同していただきやすい使途を熟考した上で、年度内の募集開始を達成しているため、計画通りに進んでいると判断した。		
A	次年度の年度計画	【42】既実施のクラウドファンディングの実績を検証し、ファンドレイジングの観点から、適用メニューや次回実施時期を検討する。		

評価シート（個票）

通し番号		58		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第4-1 収入の確保 来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により天王寺動物園の魅力を向上させつつ、新型コロナウイルス感染症をはじめとする新興感染症対策による安全と集客のバランスも考慮した動物園経営で、着実に入園料収入を確保することに加え、戦略的な渉外営業（ファンドレイジングを含む。）や魅力的なグッズ開発等の入園料外収入の確保に努める。		
P	中期計画	第3-1 収入の確保 事業の実施に必要な資金を安定的に確保するため、来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により、安全と集客のバランスも考慮しながら着実な入園料収入の確保に努めるとともに、ファンドレイジングを始めとした渉外営業等による入園料外収入の確保に努める。		
	年度計画	渉外営業戦略（ファンドレイジングを含む。）を立案（第1四半期）し、同戦略に基づき渉外営業に着手する。		
	評価事例	Ⅲ	・ 渉外営業戦略（ファンドレイジングを含む。）の立案	
		Ⅳ・Ⅴ	・ 寄附の獲得実績	
D	行動	以下のスケジュールで検討を行い、渉外営業戦略を策定。10月より渉外営業を開始している。 5～6月：戦略案作成、ファンドレイジングPT立ち上げ 7月：戦略検討 8月：立案 9月：営業先選定、営業グッズ作成 10月～：渉外営業実施 ＜渉外営業戦略概要＞ ・ 入園料増収と会費寄附獲得を目的とする。 ・ 入園料外収入である会費および寄附のさらなる獲得を目指しファンドレイジング基本計画を策定した。 ・ 会費と寄附の特性を分析し、アプローチ方法を検討した。 （参考）令和3年度寄附実績38,505,067円（寄附金：33,601,709円、物品寄附：4,903,358円） 物品寄附の例 各種計量器・ピュアウォッシャー（株式会社クボタ） 電光工具類・事務用椅子（コーナン商事株式会社） カセットガス用機器・カセットガス（岩谷産業株式会社）		
C	法人の自己評価	Ⅳ	評価理由	渉外営業戦略（ファンドレイジングを含む）の策定および寄附の獲得実績があったため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅳ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	・ ファンドレイジング基本計画を含む渉外営業戦略を策定している。 ・ 戦略に基づく行動の結果、寄附の獲得実績がある。 以上の点より、計画を上回っていると判断した。		
A	次年度の年度計画	【43】 営業実績（R3）の検証を踏まえた営業計画（R4）に基づき営業を実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		59		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第4-1 収入の確保 来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により天王寺動物園の魅力を向上させつつ、新型コロナウイルス感染症をはじめとする新興感染症対策による安全と集客のバランスも考慮した動物園経営で、着実に入園料収入を確保することに加え、戦略的な渉外営業（ファンドレイジングを含む。）や魅力的なグッズ開発等の入園料外収入の確保に努める。		
P	中期計画	第3-1 収入の確保 事業の実施に必要な資金を安定的に確保するため、来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により、安全と集客のバランスも考慮しながら着実な入園料収入の確保に努めるとともに、ファンドレイジングを始めとした渉外営業等による入園料外収入の確保に努める。		
	年度計画	寄付額25百万円を目標とする。（令和3年度予算）		
	評価事例	Ⅲ	・ 寄付額25百万円（令和3年度予算）以上の獲得	
		Ⅳ・Ⅴ	・ 寄付収入は、法人の計画的な獲得プロセスとの因果関係が明瞭であれば評価	
D	行動	以下のスケジュールで検討を行い、渉外営業戦略を策定。以降、それに沿い、入園料外収入の獲得に努めている。 5月～6月：過去の寄附者をリスト化し、分析 6月～7月：働きかけ方法の検討、ファンドレイジングPT立ち上げ 8月：渉外営業戦略の立案 10月～：渉外営業の開始 10月：ファンクラブ開始 3月：クラウドファンディングを実施 随時：クラウドファンディング実施やファンクラブ開始の案内等、寄附獲得の働きかけを行う 令和3年度 入園料外収入 予算 25百万円 実績 42百万円（企業 22、個人 11、ファンクラブ 9）		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	寄付額を25百万円以上獲得したため
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	25百万円以上の寄付を獲得している。 結果的に目標を大きく上回る収入を上げているが、獲得にかかるプロセスと法人の計画の因果関係が確認できないため、計画通りであると判断し、Ⅲ評価に留める。		
A	次年度の年度計画	【44】 寄附額25百万円を目標とする。（令和4年度予算）		

評価シート（個票）

通し番号		60		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第4-1 収入の確保 来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により天王寺動物園の魅力を向上させつつ、新型コロナウイルス感染症をはじめとする新興感染症対策による安全と集客のバランスも考慮した動物園経営で、着実に入園料収入を確保することに加え、戦略的な渉外営業（ファンドレイジングを含む。）や魅力的なグッズ開発等の入園料外収入の確保に努める。		
P	中期計画	第3-1 収入の確保 事業の実施に必要な資金を安定的に確保するため、来園者サービスの充実、積極的なプロモーション活動等により、安全と集客のバランスも考慮しながら着実な入園料収入の確保に努めるとともに、ファンドレイジングを始めとした渉外営業等による入園料外収入の確保に努める。		
	年度計画	ホッキョクグマほか時宜を得たオリジナルグッズの開発・販売		
	評価事例	Ⅲ	・オリジナルグッズの開発・販売ができています	
		Ⅳ・Ⅴ	・計画数以上の販売実績 ・計画数以上のグッズ開発実績	
D	行動	年5種類（過去実績に基づく）以上のオリジナルグッズ開発・販売を目指す 【店内売店等】計7種類 ホッキョクグマ親子トートバッグ・おせんべい・マグネット・ポストカード・天王寺動物園コレクション（ぬいぐるみ5種類）・しろくまイッチちゃんイエロー・たべっ子どうぶつコラボフィギュア 【企業コラボ商品】 ・「マウントレニア デザインパッケージ」（ホッキョクグマのハウちゃん） ・ホッキョクグマのイラストと天王寺動物園のロゴ入りのお持帰り紙袋の制作 ・ハウちゃんフォトブック（キッズプロモーションと協働事業） （予約だけで1500冊販売） 園内の動物に紐づいた商品だけでなく、一般のトレンド商品とのコラボグッズも開発・販売（たべっ子どうぶつフィギュア×動物園スタッフユニフォーム、マウントレニアデザインパッケージなど）することで、新聞等で話題となり、集客につながった。 今年度は、ハウちゃん効果で計画以上の開発・販売ができた。		
C	法人の自己評価	Ⅳ	評価理由	トレンド商品とのコラボ等で話題となり、集客・売上に貢献したため
	市の評価（案）	Ⅳ	評価理由	計画数以上の開発実績があるため
	ヒアリング結果	・約10種類のオリジナルグッズの開発・販売ができています。 計画数（年間5種）を上回る実績があり、計画より上回っていると判断した。		
A	次年度の年度計画	【45】時宜を得たオリジナルグッズの開発・販売を展開する。		

評価シート（個票）

通し番号		61		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第4-2 経費の節減 常に高いコスト意識を持って動物園経営を行い、日々の業務内容等の点検・精査により、経費を節減することはもちろんのこと、獣舎整備等の投資についても地方独立行政法人における制度上の優位性を最大限に活かし、発注方法等の工夫で、経費の抑制に努める。		
P	中期計画	第3-2 経費の節減 日々の業務内容等の点検・精査や管理業務における外部委託内容の精査、獣舎整備における発注方法の工夫及び固定経費のさらなる節減等により運営経費の抑制に努める。		
	年度計画	漏水箇所の特定のために、これまでから行っていた各獣舎への水道子メーターの設置を完了させ、漏水が発見された箇所については、修繕を行う。（令和3年度に11か所設置し、全42箇所の設置が完了）		
	評価事例	Ⅲ	・水道子メーターの設置が完了	
		Ⅳ・Ⅴ	（例示なし）	
D	行動	子メータ設置箇所・時期について調整していたところ、令和3年度に11か所を設置する予定であった箇所が、獣舎リニューアル工事の一体整備が控えていることで不要とした。 令和2年度以前に設置済のメーターについては、前年度同月と比較検証を行い、適宜漏水が生じていないかの確認を行った。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	水道子メーターの設置が完了（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	獣舎整備計画の変更に連動して、メーター設置箇所の再検討を行うとともに、設置済みのメーターについて、比較検証を実施する仕組みを構築できているため、計画どおり進んでいると判断できる。		
A	次年度の年度計画	【46】昨年度までに設置した水道子メーターによる使用量を引き続き検証する。検証により漏水の可能性のある場所については調査し、漏水が特定された場合に修繕を行う。		

評価シート（個票）

通し番号		62		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第4-2 経費の節減 常に高いコスト意識を持って動物園経営を行い、日々の業務内容等の点検・精査により、経費を節減することはもちろんのこと、獣舎整備等の投資についても地方独立行政法人における制度上の優位性を最大限に活かし、発注方法等の工夫で、経費の抑制に努める。		
P	中期計画	第3-2 経費の節減 日々の業務内容等の点検・精査や管理業務における外部委託内容の精査、獣舎整備における発注方法の工夫及び固定経費のさらなる節減等により運営経費の抑制に努める。		
	年度計画	設計業務に着手するホッキョクグマ舎について、直営時代と比べて1割のコスト縮減を図る。		
	評価事例	Ⅲ	・獣舎整備において、一括発注方法を検討し、直営時代と比べ1割のコスト縮減見込を達成（一括発注契約額で確認）	
		Ⅳ・Ⅴ	（例示なし）	
D	行動	地方独立行政法人化以降、施設担当と飼育担当間でより綿密に連携するよう努めており、効率的にコスト縮減方策を検討することができた他、制度面でも柔軟な契約手法を採用できるようになったことから新たな発注形式等を検討をした。 直営時代と比べ1割減を図るべく検討を重ねた結果、ホッキョクグマ舎を含む整備獣舎を集約化した設計施工一括方式をR4年度に予定している。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	直営時代と比べて1割のコスト縮減を図る工事発注を予定しているため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	法人化後の柔軟な契約手法を生かし、ホッキョクグマ獣舎について、その他の獣舎と併せた設計施工一括の発注による工期縮減とコスト削減を図れた整備工事を予定するなど、計画どおり進んでいると判断できる。		
A	次年度の年度計画	【47】当法人で着手するすべての獣舎整備（ホッキョクグマ舎、アジアの森等）で直営時代と比べて1割のコスト縮減を図る。		

評価シート（個票）

通し番号		63		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-1-(1) 重要なリスクを回避するためのマネジメント体制の構築		
P	中期計画	第8-2-(4)-① 重要なリスクを回避するためのマネジメント体制の構築 集客施設運営上の特性及び地方独立行政法人法上求められる内部統制の考え方を踏まえ、重要なリスクを回避する体制が機能するとともに、必要に応じて見直し可能な仕組みを構築する。		
	年度計画	関係法令等を踏まえ、園の業務実態に応じた内部統制体制を構築する。（上半期）		
	評価事例	Ⅲ	・ 内部統制体制の構築	
		Ⅳ・Ⅴ	（例示なし）	
D	行動	内部統制体制について、外部通報制度と合わせ体制を構築することができた。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	体制構築済みのため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	内部統制規程を策定し体制図を構築しているとともに内部統制体制に関わる外部通報制度の規程も併せて策定しているのが確認でき、計画どおり進んでいると判断できる。		
A	次年度の年度計画	【48】 内部統制委員会において、内部統制の整備及び運用に関する定期的な状況報告を踏まえ、必要な改善策を検討する。 【49】 リスク管理規程に基づくリスク管理を着実に実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		64		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-1-(1) 重要なリスクを回避するためのマネジメント体制の構築		
P	中期計画	第8-2-(4)-① 重要なリスクを回避するためのマネジメント体制の構築 集客施設運営上の特性及び地方独立行政法人法上求められる内部統制の考え方を踏まえ、重要なリスクを回避する体制が機能するとともに、必要に応じて見直し可能な仕組みを構築する。		
	年度計画	ヒヤリハット事例の共有や飼育作業マニュアルの実施状況の定期的な確認と、必要に応じた改訂を継続する。（【26】と関連）		
	評価事例	Ⅲ	・ヒヤリハットの事例の共有やマニュアルの実施状況の確認と定期的な改訂	
		Ⅳ・Ⅴ	・無事故実績	
D	行動	令和3年度中に発生したヒヤリハット事例（2件）について、飼育連絡会および安全衛生委員会において事務所内での情報共有を行った。 （発生した事例は飼育作業マニュアルに関わる内容ではなく、設備修繕及びその他作業の手法の見直しにより改善できる範囲であったため、マニュアルの改訂は行っていない。） また、飼育作業マニュアルは年2回の検証作業を実施した。（小項目26参照）		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	ヒヤリハット事例の共有やマニュアルの実施状況の定期的な確認を行ったため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	ヒヤリハット事例について、安全衛生委員会等を活用し、事務所内全体で共有できている他、発生後は適切な対策をとっていることが確認できた。		
A	次年度の年度計画	【17】ヒヤリハット事例の共有や飼育作業マニュアルの実施状況の定期的な確認と、必要に応じた改定を継続する。		

評価シート（個票）

通し番号		65		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-1-(2) 法人運営に必要な諸規程の整備、周知徹底及び適切な運用		
P	中期計画	第8-2-4-② 法人運営に必要な諸規程の整備と周知徹底、適切な運用 法人運営にあたって整備した諸規定を関係職員が十分に理解したうえで、円滑に運用できるよう取り組むとともに必要に応じて見直しを行う。		
	年度計画	法人設立当初に整備した諸規程類について全職員に研修する。（上半期）		
	評価事例	Ⅲ	・研修の実施	
		Ⅳ・Ⅴ	・研修についての職員アンケート等での高評価	
D	行動	研修計画に沿って、以下のとおり研修実施済。 ○新規採用者向け オリエンテーション 新規採用者研修（動物福祉倫理規定・感染症対策・法人組織・規程等・文書事務） ○新規採用者を除く係長級以下職員向け 法人組織規程研修 ○係長級以下職員向け コンプライアンス研修		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	研修実施済みのため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	新規採用者に適切に研修を行うとともにその他職員に対しても、今後の法人運営に必要な規程等の研修を適切に実施しているのが確認でき、計画どおり進んでいる。		
A	次年度の年度計画	【50】規程類について、新規採用者及び転入異動職員に研修する。（上半期）		

評価シート（個票）

通し番号		66		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-1-(2) 法人運営に必要な諸規程の整備、周知徹底及び適切な運用		
P	中期計画	第8-2-4-② 法人運営に必要な諸規程の整備と周知徹底、適切な運用 法人運営にあたって整備した諸規定を関係職員が十分に理解したうえで、円滑に運用できるよう取り組むとともに必要に応じて見直しを行う。		
	年度計画	諸規程類の運用状況を確認のうえ、必要に応じて見直し若しくは新たに整備するなどの対応を行う。（下半期）		
	評価事例	Ⅲ	・ 諸規程類の運用状況の確認及び必要に応じた見直し等の実施	
		Ⅳ・Ⅴ	（例示なし）	
D	行動	業務の中で新たに必要となった謝金規則を策定した。 研修時のアンケートなどを活用し、現行規定にかかる運用状況を確認した結果、今年度については修正を行わなかった。 今後も適宜、職員に意見聴取の上、必要に応じた見直しや新しい規定の整備を行う。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	適切に規定整備や見直しを実施したため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	単に現行規定の研修を実施しているだけでなく、規定の柔軟な見直しや新たな規定の策定などに関しても、研修時のアンケートなどの機会を生かして、意見聴取する仕組みも構築しているのが確認でき、計画どおり進んでいると言える。		
A	次年度の年度計画	【51】 諸規程類の運用状況を確認のうえ、必要に応じて見直し若しくは新たに整備するなどの対応を行う。（下半期）		

評価シート（個票）

通し番号		67		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-1-(3) コンプライアンスの周知徹底		
P	中期計画	第8-2-4-③ コンプライアンスの周知徹底 法令順守に加えて、独立行政法人の職員として社会（来園者）の要請に応える行動は何かを理解する。		
	年度計画	当園のみならず、設立団体や他団体のコンプライアンス事例をもとにグループ討議を行うなど参加型の研修を最低年1回は実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・研修の実施	
		Ⅳ・Ⅴ	・研修についての職員アンケート等での高評価	
D	行動	大阪市のコンプライアンス研修事例をもとに、グループ討議を実施した。また、課長級以上を対象とした監事による研修も実施した。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	参加型研修実施済みのため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	参加型のグループ討議をすることで、新たに採用された職員だけでなく派遣されている職員も含め、法人としてのコンプライアンスの理解を深めているのが確認でき、計画どおり進んでいると判断できる。		
A	次年度の年度計画	【52】当園のみならず、設立団体や他団体のコンプライアンス事例をもとにグループ討議を行うなど参加型の研修を最低年1回は実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		68		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-1-(4) 個人情報等の保護		
P	中期計画	第8-2-4-④ 個人情報等の保護 個人情報等の保護に関する法律に基づいて整備した法人の個人情報保護規定を職員全員が十分に理解・運用できている状態とする。		
	年度計画	各業務において個人情報を扱う事務の棚卸を行い、漏洩リスクのあるポイントを明確にし、各種事務における作業上の重要管理ポイントを策定する。（上半期）		
	評価事例	Ⅲ	・重要管理ポイントの策定	
		Ⅳ・Ⅴ	（例示なし）	
D	行動	個人情報を扱う事務について、各担当課で整理し事務ごとの重要管理ポイントを策定し、各課周知した。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	重要管理ポイント策定済みのため （評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	法人設立当初から個人情報保護規定に基づく個人情報を扱う事務ごとの重要管理ポイントを策定することができている。また当年度に重要管理ポイントの設定に基づく検査を実施する体制を整えていることも確認でき、計画どおり進んでいると判断できる。		
A	次年度の年度計画	【53】各業務において個人情報を扱う事務の棚卸を行い、漏洩リスクのあるポイントを明確にし、各種事務における作業上の重要管理ポイントの策定・改廃を行う。（上半期）また、重要管理ポイントが順守されているかどうかの点検を行う。（下半期）		

評価シート（個票）

通し番号		69		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-1-(4) 個人情報等の保護		
P	中期計画	第8-2-4-④ 個人情報等の保護 個人情報等の保護に関する法律に基づいて整備した法人の個人情報保護規定を職員全員が十分に理解・運用できている状態とする。		
	年度計画	重要管理ポイントが順守されているかどうかの点検を行う。		
	評価事例	Ⅲ	・重要管理ポイントの順守点検	
		Ⅳ・Ⅴ	（例示なし）	
D	行動	重要管理ポイントの設定に基づいた事務が行われているか、机上やFAX・コピー機に個人情報を含む資料が存置されていないかなどの観点で抜き打ち検査を実施するとともに各課での運用状況の聞き取りを行った。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	点検実施済みのため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	上半期に策定した重要管理ポイントを、各課で順守するようメール等で周知するとともに抜き打ち検査も行っており、計画どおり進んでいると判断した。		
A	次年度の年度計画	【53】各業務において個人情報を扱う事務の棚卸を行い、漏洩リスクのあるポイントを明確にし、各種事務における作業上の重要管理ポイントの策定・改廃を行う。（上半期）また、重要管理ポイントが順守されているかどうかの点検を行う。（下半期）		

評価シート（個票）

通し番号		70		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-1-(5) 内部監査及び監事による監査の適切な実施		
P	中期計画	第8-2-4-⑤ 内部監査及び監事監査の適切な実施 内部監査により定期的に内部統制環境の有効性をモニタリングするとともに、監事による監査を通じて、内部統制に関する必要な見直しを行う。		
	年度計画	各業務から重要なリスクを発生させるおそれのある事象を選択し、内部監査を行う仕組みを制度化する。（上半期）		
	評価事例	Ⅲ	・ 内部監査を行う仕組みの制度化	
		Ⅳ・Ⅴ	（例示なし）	
D	行動	内部監査を体系的に行うため、以下の規定整備を行った。 ①内部監査規程 ②内部監査実施要領 ③監査実施計画（内部監査・監事監査共に策定済み） 今年度はこれに沿って、年度計画の進捗状況・薬品類の管理・現金等の取扱いについて、監査を実施した。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	制度化済みのため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	法人設立当初から内部監査・監事監査を実施するため、内部監査規程等や監事監査年度計画を作成したうえ制度化していることが確認でき、計画どおり進んでいると判断できる。		
A	次年度の年度計画	【48】内部統制委員会において、内部統制の整備及び運用に関する定期的な状況報告を踏まえ、必要な改善策を検討する。 【49】リスク管理規程に基づくリスク管理を着実に実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		71		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-1-(5) 内部監査及び監事による監査の適切な実施		
P	中期計画	第8-2-4-⑤ 内部監査及び監事監査の適切な実施 内部監査により定期的に内部統制環境の有効性をモニタリングするとともに、監事による監査を通じて、内部統制に関する必要な見直しを行う。		
	年度計画	内部監査・監事監査を実施し、必要に応じて内部統制環境の見直しを行う。（下半期）		
	評価事例	Ⅲ	・内部監査・監事監査のうえ必要に応じて内部統制環境の見直しを実施	
		Ⅳ・Ⅴ	（例示なし）	
D	行動	上半期に内部監査にかかる規程等を作成したうえで内部監査・監事監査を実施した。今年度の結果は内部統制環境の不備に起因する指摘はなかったものの、来年度以降も引き続き、必要に応じ内部統制環境の見直しを検討を行う。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	内部監査実施済みのため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	法人設立当初から内部監査・監事監査を実施し、監査結果を園全体で共有していることが確認でき、計画どおり進んでいると判断できる。		
A	次年度の年度計画	【54】内部監査・監事監査を実施のうえ、必要に応じて内部統制環境の見直しを実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		72		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-1-(6) ネットワークセキュリティの強化		
P	中期計画	第8-2-4-⑥ ネットワークセキュリティの強化 個人情報等の機密情報の漏えいを未然に防ぐため、情報セキュリティ対策を徹底する。		
	年度計画	情報セキュリティポリシー及びマニュアルを策定し、その運用状況を検証し、必要に応じて改定するとともに、設立団体並みの研修を実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・セキュリティポリシー、マニュアルの策定及び研修の実施	
		Ⅳ・Ⅴ	・研修についての職員アンケート等での高評価	
D	行動	独法の先行事例や大阪市の資料等を情報収集し、情報セキュリティポリシー及びマニュアルを策定した。 作成後、責任者研修を実施するとともに、職員向けeラーニングの実施も滞りなく終わらせることができた。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	各種策定のうえ、研修実施済みのため （評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	法人設立当初からマニュアル等を作成するとともに、職員への情報セキュリティ研修およびIT責任者への研修も実施していることが確認でき、計画どおり進んでいると判断できる。		
A	次年度の年度計画	【55】必要に応じてセキュリティポリシー、マニュアルの運用状況を検証のうえ、必要に応じて改訂を行うとともに、設立団体並みの研修を実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		73		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-2 来園者の安全確保 来園者が安全かつ快適に施設を利用できるよう、施設を適正に維持管理するとともに、計画的に施設の整備を推進する。		
P	中期計画	第8-2-(5) 来園者の安全確保 園内施設の安全確保や来園者の安全確保に必要な体制の整備 及び園内で業務に従事する関係者への安全意識の周知徹底を行う。		
	年度計画	今年度設計若しくは工事を実施するペンギン・アシカ舎、ふれあい家畜・小動物舎、ホッキョクグマ舎において、設計上・工事施工上の観点から来園者及び職員の安全対策に配慮する。		
	評価事例	Ⅲ	・安全対策への配慮（評価時には具体的に例示要）の実施	
		Ⅳ・Ⅴ	・安全対策を考慮した施工計画の立案 ・工事時の無事故実績	
D	行動	【現場の配慮】（市施工 ペンギン・アシカ舎、ふれあい家畜・小動物舎） 安全対策の配慮（工事車両動線など、来園者、職員への対策）について、工事担当（都市整備局、施工業者）との定例会議にて、工事の仮囲い状況が的確に実施されていることを確認した。 （その結果、安全面での事故は生じていない。） 【設計上の配慮】（法人施工 ホッキョクグマ舎） 基本設計においても、各種法令（バリアフリー、消火設備など）の遵守及び工事施工エリアの設定が的確に行われているかを確認・指示し、より安全対策が実施できるよう、情報共有・各種調整を行った。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	安全配慮を行ったため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	現在施工中の工事においても、今後実施予定の工事においても、来園者及び職員両面からの安全対策を講じており、計画どおりと判断できる。		
A	次年度の年度計画	【56】今年度、設計若しくは工事を実施する全ての案件において、設計上・工事施工上の観点から来園者及び職員の安全対策に配慮する。		

評価シート（個票）

通し番号		74	
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。	
		第5-2 来園者の安全確保 来園者が安全かつ快適に施設を利用できるよう、施設を適正に維持管理するとともに、計画的に施設の整備を推進する。	
P	中期計画	第8-2-(5) 来園者の安全確保 園内施設の安全確保や来園者の安全確保に必要な体制の整備 及び園内で業務に従事する関係者への安全意識の周知徹底を行う。	
	年度計画	獣舎及び園内施設定期点検を着実に行う。	
	評価事例	Ⅲ	・点検の実施
		Ⅳ・Ⅴ	（例示なし）
D	行動	獣舎の点検は年2回実施している。また点検で判明した修繕が必要な個所については、施設ごとの点検・補修状況に漏れがないよう、各担当と的確に調整したうえ取りまとめを行っている。 デッキ、フェンスなどを含む園内施設についても、美化点検（項目13）に併せて目視点検を実施し、定期点検一覧表にて報告を行っている。	
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由 定期点検を予定通り実施しているため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由 法人評価のとおり
	ヒアリング結果	獣舎点検を年2回定期的に行ったうえ、その点検結果の報告を以て計画的に修繕を実施している。 また園内施設についても、巡回とともに美化点検と目視点検を行い、維持管理に努めおり、計画どおり進んでいると判断できる。	
A	次年度の年度計画	【57】 獣舎及び園内施設の定期点検を着実に行う。	

評価シート（個票）

通し番号		75		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-2 来園者の安全確保 来園者が安全かつ快適に施設を利用できるよう、施設を適正に維持管理するとともに、計画的に施設の整備を推進する。		
P	中期計画	第8-2-(5) 来園者の安全確保 園内施設の安全確保や来園者の安全確保に必要な体制の整備 及び園内で業務に従事する関係者への安全意識の周知徹底を行う。		
	年度計画	飼育動物脱走時の訓練を実施する。		
	評価事例	Ⅲ	・訓練の実施	
		Ⅳ・Ⅴ	（例示なし）	
D	行動	6月末までに猛獣脱出防止対策マニュアルの見直しを行い、防災訓練と合わせて10月4日（月）に訓練を実施した。 訓練の結果、動物捕獲の手順にミスがあったため、改めて周知徹底を行った。 また、無線機や捕獲用具の不具合が見つかったため、無線機については年度内に更新を行い、捕獲用具については、新年度に更新を行う準備を行った。 また参加者へのヒアリングも実施し、課題等の分析を行った。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	訓練を実施したため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	飼育動物脱走時の訓練を実施している。参加者にヒアリングを行うことにより課題等を分析し、次回以降に反映できるような仕組みとなっている。		
A	次年度の年度計画	【58】令和3年度に引き続き、受託事業者への安全意識の徹底に加えて、職員と合同での災害・猛獣脱出訓練及び研修で、より質の高い体制とするための方策を検討する。		

評価シート（個票）

通し番号		76		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-2 来園者の安全確保 来園者が安全かつ快適に施設を利用できるよう、施設を適正に維持管理するとともに、計画的に施設の整備を推進する。		
P	中期計画	第8-2-(5) 来園者の安全確保 園内施設の安全確保や来園者の安全確保に必要な体制の整備及び園内で業務に従事する関係者への安全意識の周知徹底を行う。		
	年度計画	受託事業者への安全意識の徹底に加えて、合同での訓練・研修等でより質の高い体制とするための方策を検討する。		
	評価事例	Ⅲ	・ 受託事業者との合同研修・訓練等の方策の検討	
		Ⅳ・Ⅴ	・ 合同研修・訓練の実施実績	
D	行動	例年職員で実施している災害訓練と猛獣脱出訓練を統合し、また対象も園内事業者を含めて災害訓練を10月4日（月）に実施した。 訓練実施後、アンケートを実施。結果を来年度の訓練に反映させた。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	訓練実施済みのため
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	毎年実施している災害訓練と猛獣脱出訓練を1つにするとともに、訓練対象も職員だけでなく園内事業者にも範囲を広げ、参加者全員が安全に対する意識を共有できており、計画どおり進んでいると判断できる。		
A	次年度の年度計画	【58】令和3年度に引き続き、受託事業者への安全意識の徹底に加えて、職員と合同での災害・猛獣脱出訓練及び研修で、より質の高い体制とするための方策を検討する。		

評価シート（個票）

通し番号		77		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-3 職員の安全衛生管理 職員が安全かつ快適な労働環境で業務に従事できるよう、安全対策の徹底と事故防止に努める。 また、職員が心身ともに健康を保持し、その能力を十分発揮できる職場環境づくりに努める。		
P	中期計画	第8-2-(6) 職員の安全衛生管理 労働安全衛生法等に基づいた安全衛生管理体制に加え、職員の健康保持促進のための取り組みを進めるとともに、職員へ周知徹底する。		
	年度計画	産業医及び衛生管理者の選任、ハラスメント相談窓口の設置、職員健康診断、ストレスチェックを行うほか、関連する指針や手引き等を整備する。		
	評価事例	Ⅲ	・産業医等選任、ハラスメント相談窓口設置、職員健康診断・ストレスチェックの実施及び関連手引き等の整備	
		Ⅳ・Ⅴ	（例示なし）	
D	行動	各種法令等に則り、以下のスケジュールで実施済み。 ・4月 産業医・衛生管理者の選任 ・4月～3月 安全衛生委員会の開催（月1回） ・6月 ハラスメント相談窓口の設定・周知 ・6月 健康診断実施業者決定 ・6月 破傷風対象者調査 ・7月 破傷風予防接種業者決定 ・7月～8月 健康診断実施（7月26日・8月30日） ・8月 ストレスチェック業者決定・業者打ち合わせ ・8月～9月 破傷風予防接種日程調整 ・10月～12月 破傷風予防接種実施 ・9月6日 ストレスチェック実施通知（～9月21日） ・9月～10月 健康講座実施予定 ・9月～翌3月 健康診断事後措置 ・翌1月～2月 特殊健康診断等実施		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	各種実施済みのため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	職員の安全衛生管理について、法人設立当初から着実に進めるとともに、獣医師のための特殊健康診断も適切に行っていることが確認でき、計画どおり進んでいると判断できる。		
A	次年度の年度計画	【60】引き続き、安全衛生管理体制の確立と職員の健康保持のための取り組みを進めるとともに健診等を着実に実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		78		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		（第5-4）環境に配慮した取組の推進 環境への負荷を低減するため、天王寺動物園内及び事務所内において環境に配慮した取組を推進する。		
P	中期計画	第8-2-（7） 環境に配慮した取組の推進 WAZA（世界動物園水族館協会）の持続可能戦略で示されたSDGsへの貢献に向け、環境に配慮した取組を推進する。		
	年度計画	環境への負荷を低減し、野生動物の生息環境を守るため、WAZAの持続可能性戦略で示されたチェックリストを踏まえ、天王寺動物園の実行可能なSDGsへの取り組み方針を策定し、公表する。		
	評価事例	Ⅲ	・取り組み方針を策定し、公表の実施	
		Ⅳ・Ⅴ	・取り組みの実績	
D	行動	WAZAの持続可能性戦略、他園館や民間企業の取り組み状況に関する情報収集を行い、SDGsの取り組み方針を策定し、現在の取り組み状況と併せてHPに公表した。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	方針を策定し、公表済みのため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	SDGsの取り組み方針を策定するにあたり、他園館や民間企業の取り組みの情報収集を行うとともに、WAZAの持続可能性戦略で示されている概念に沿った取り組み方針を策定している。またHPに現在の取り組み状況と併せて公表していることから、計画どおり進んでいると判断できる。		
A	次年度の年度計画	【61】令和3年度に策定公表したSDGsへの取り組み方針を実施する。		

評価シート（個票）

通し番号		79		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-5 情報公開の推進 法人の運営状況について透明性を確保するため、毎年の業務実績報告書等により情報公開を推進する。		
P	中期計画	第8-2-（7） 情報公開の推進 情報公開を推進し、運営状況の透明性を高めることで、法人の活動への理解及び信頼を得る。 また、法令に定める情報のみならず業務内容の理解に資する情報も、積極的に公表する。		
	年度計画	法令に定める決算・業務実績報告書等に加え、業務内容に関する資料（年報）を令和4年度から公表する。		
	評価事例	Ⅲ	・法定事項の情報、年報等の作成及び公開（公開はR4で可）	
		Ⅳ・Ⅴ	（例示なし）	
D	行動	年報の構成について先行独法や他の動物園館を参考に作成し、令和4年度公表に向け準備を整えている。 また同じく決算・業務実績報告書など法令に定めたものについても、令和4年度に公表できる準備を整えている。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	令和4年度から公表する業務内容に関する資料（年報）等を作成したため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	年報及び決算・業務実施報告書等について、先行独法や他園を参考にして作成し、令和4年度の公表に向け着実に計画を進めており、計画どおり進んでいると判断できる。		
A	次年度の年度計画	【62】業務に関する年報（Annual Report）を公表する。（上半期）		

評価シート（個票）

通し番号		80		
中期目標		（前文）世界動物園水族館協会加盟園にふさわしい動物園として、「国際社会に貢献し、世界に誇れる動物園」を目指す。		
		第5-6 B C Pの策定 地震や台風等大規模な自然災害の発生や新興感染症の流行等によるリスクを最小限とするため、B C P（事業継続計画）を策定し、重大事故等の危機事象が発生した際の体制を構築する。		
P	中期計画	第8-2-（8）B C Pの策定 地震、台風など自然災害及び新型コロナウイルス感染症、鳥インフルエンザなどの新興感染症時による対応をあらかじめ定めることで来園者・職員の安全を確保する。		
	年度計画	直営時の対応マニュアルも踏まえ、事業継続計画を整理策定する。（自然災害（地震・台風）、新興感染症（新型コロナウイルス感染症など））		
	評価事例	Ⅲ	・事業継続計画の策定	
		Ⅳ・Ⅴ	（例示なし）	
D	行動	災害（地震・風水害）対応マニュアル、ネットワーク障害対策マニュアルについて作成した。 新型コロナウイルス感染症対策についても、令和2年度に策定したマニュアルを変異株を踏まえた内容に改訂した。 B C P作成にあたっては、各獣舎施設や飼育動物の特性に起因する災害発生時の潜在リスクについて、各飼育担当にアンケートを実施し、挙げられたリスクを踏まえて策定を行った。		
C	法人の自己評価	Ⅲ	評価理由	計画策定済みのため（評価事例のとおり）
	市の評価（案）	Ⅲ	評価理由	法人評価のとおり
	ヒアリング結果	災害（地震・風水害）対応マニュアル、ネットワーク障害対策マニュアルを新たに作成するとともに、B C Pについては、飼育動物の生命に重きを置いて策定していることが確認できる。また、新たな課題等が出てきた場合は、速やかに実施できる体制が整っていることから計画どおり進んでいると判断できる。		
A	次年度の年度計画	【63】事業継続計画の周知と意見交換を踏まえ、必要に応じた改訂を実施する。		